LEXUS

IS F
取扱説明書

Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。

LEXUS

TABLE OF CONTENTS

目次

1 **運転する前に**

運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。

2 **運転するときに**

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。

3 **室内装備の使い方**

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。

4 **お手入れのしかた**

お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。

5 **トラブルが起きたら**

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。

6 **車両仕様**

お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

TABLE OF CONTENTS 目次

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い

キー 20

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー＆スタートシステム..... 24
ワイヤレスリモコン..... 34
ドア 36
トランク 40

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート..... 44
ドライビングポジションメモリー（運転席）..... 45
シートポジションメモリー（助手席）..... 49
ヘッドレスト 51
シートベルト 53
ハンドル 58
インナーミラー..... 60
ドアミラー 61

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ..... 64
ムーンルーフ 67

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方..... 72

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステム 76
オートアラーム 77

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢 80
SRS エアバッグ 81
チャイルドシートの取り付け 89

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 98
エンジン（イグニッション）スイッチ 106
オートマチックトランスミッション..... 110
方向指示レバー 117
パーキングブレーキ 118
ホーン（警音器）..... 119

2-2. メーターの見方

計器類 120
表示灯／警告灯 123
マルチインフォメーションディスプレイ..... 126

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ..... 129
フォグライトスイッチ 132
ワイパー＆ウォッシャー..... 134

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール..... 137
レーダークルーズ
コントロール 140
運転を補助する装置..... 149
プリクラッシュセーフティ
システム 155

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意..... 161
寒冷時の運転 163

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 168
・インテリアライト..... 169
・パーソナルライト..... 169

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧 171
・グローブボックス..... 172
・コンソールボックス..... 173
・カップホルダー..... 174
・ボトルホルダー／
ドアポケット 175
・小物入れ 176

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー..... 177
バニティミラー..... 178
時計 179
サテライトスイッチ 180
灰皿 183
シガレットライター 184
アクセサリーソケット 185
シートヒーター..... 186
アームレスト..... 188
トランクスルー..... 189
コートフック..... 191
フロアマット..... 192
トランク内装備..... 193

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 198
内装の手入れ..... 201
タイヤについて 203

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 207
ガレージジャッキ 209
エンジンルームカバー 211
電球（バルブ）の交換 213
ヒューズの点検、交換 223
電子キーの電池交換 233
ウォッシャー液の補給 235

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

非常点滅灯 238
発炎筒 239
けん引について..... 241
イベントデータレコーダー 245

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは..... 247
警告メッセージが
表示されたときは..... 251
パンクしたときは..... 263
エンジンがかからないときは ... 271
シフトレバーがシフト
できないときは..... 273
キーを無くしたときは..... 274
電子キーが正常に働かない
ときは 275
バッテリーがあがったときは ... 278
オーバーヒートしたときは 281
スタックしたときは..... 283

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（指定燃料、オイル量など）.... 286

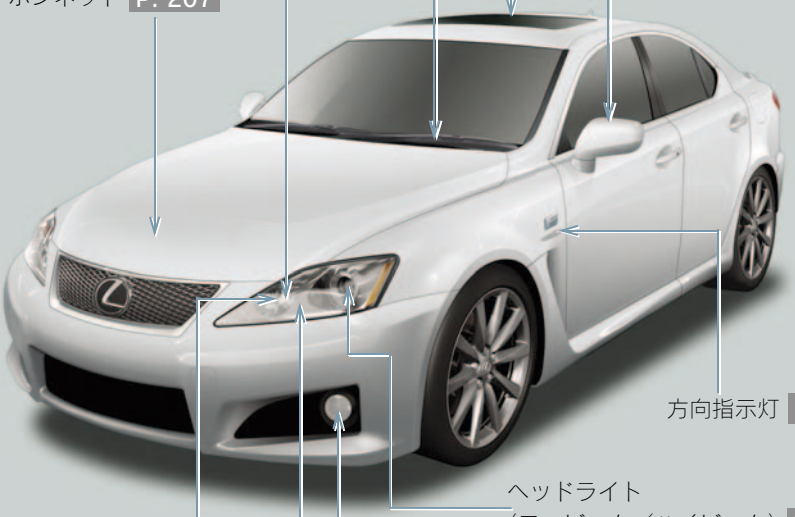
6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 293

さくいん

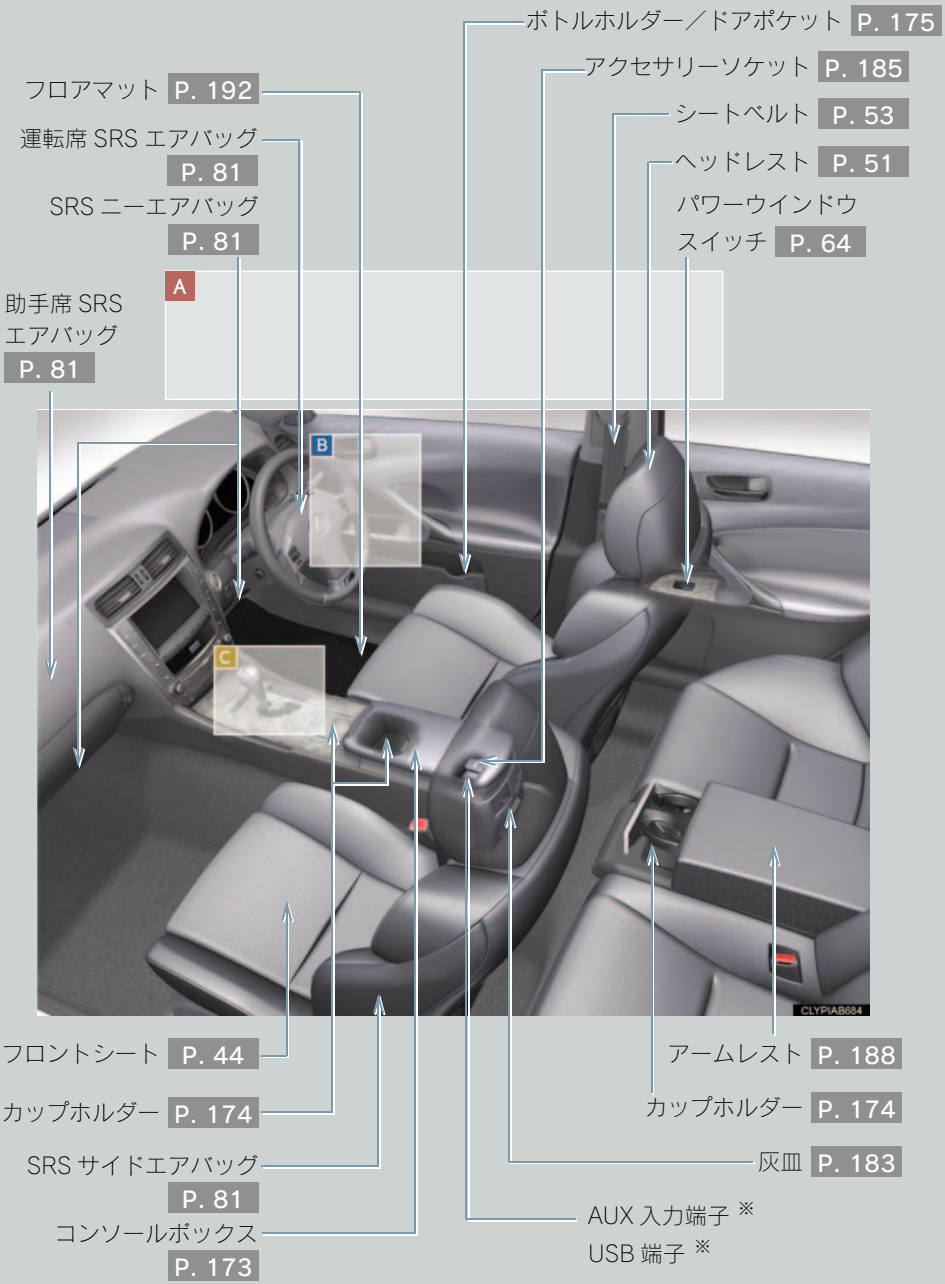
略語一覧 298
五十音順さくいん 299
症状別さくいん..... 307

外観


ワイパー P. 134
ムーンルーフ * P. 67
ドアミラー P. 61
車幅灯 P. 129
ボンネット P. 207
方向指示灯 P. 117
ヘッドライト
（ロービーム／ハイビーム） P. 129
フロントフォグライト P. 132
フロント方向指示灯 P. 117
ヘッドライト（ハイビーム） P. 129

＊：オプションなどで異なる装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

イラスト目次　室内


ボトルホルダー／ドアポケット P. 175
アクセサリーソケット P. 185
シートベルト P. 53
ヘッドレスト P. 51
パワーウインドウスイッチ P. 64
フロアマット P. 192
運転席 SRS エアバッグ P. 81
SRS ニーエアバッグ P. 81
助手席 SRS エアバッグ P. 81
A
B
C
CLYPIAB684
フロントシート P. 44
カップホルダー P. 174
SRS サイドエアバッグ P. 81
コンソールボックス P. 173
アームレスト P. 188
カップホルダー P. 174
灰皿 P. 183
AUX 入力端子 ※
USB 端子 ※

A

インナーミラー P. 60

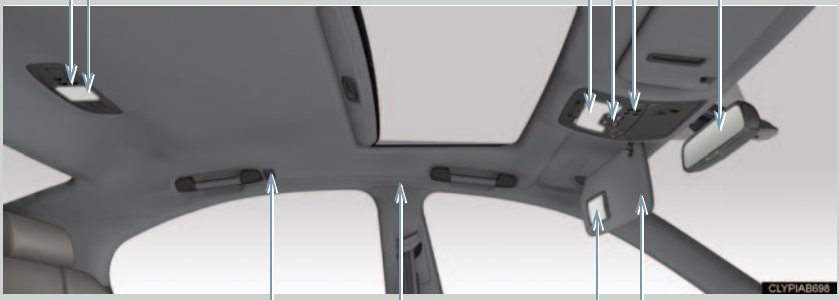
パーソナルライト P. 169

ムーンルーフスイッチ * P. 67

インテリアライト P. 169

パーソナルライト P. 169

インテリアライト P. 169



コートフック P. 191

SRS カーテンシールドエアバッグ P. 81

バニティミラー P. 178

サンバイザー P. 177

＊：オプションなどで異なる装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

B

ドアロックレバー P. 36

ドライビングポジションメモリースイッチ P. 45

シートポジションメモリースイッチ P. 49

ドアロックスイッチ P. 36

ドアミラースイッチ P. 61

ウインドウロックスイッチ P. 64

パワーウインドウスイッチ P. 64

C

シフトレバー P. 110

シガレットライター * P. 184

灰皿 * P. 183

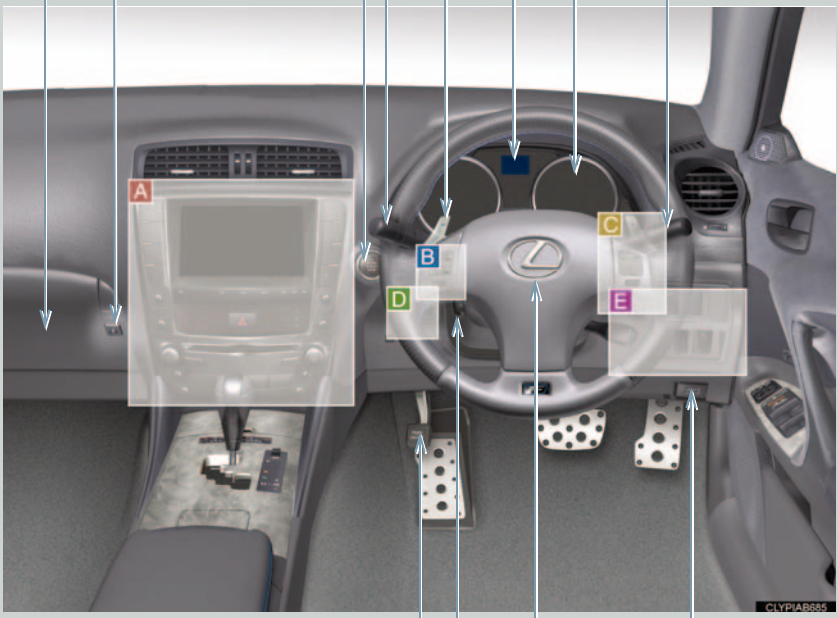
小物入れ * P. 176

シートヒータースイッチ P. 186

シフトロック解除ボタン P. 273

* ：オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル



マルチインフォメーションディスプレイ P. 126

パドルシフトスイッチ P. 111, 112

ワイパー＆ウォッシャースイッチ P. 134

メーター P. 120

エンジン（イグニッション）スイッチ P. 106

グローブボックス P. 172

ライトスイッチ P. 129

方向指示レバー P. 117

フォグライトスイッチ P. 132

トランクオープナーメインスイッチ P. 40

ボンネット解除レバー P. 207

パーキングブレーキペダル P. 118

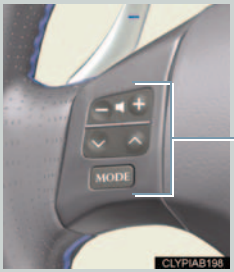
ホーン P. 119

ハンドル位置調整スイッチ P. 58

A

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

B



オーディオスイッチ※

C

電話スイッチ※

DISP スイッチ P. 126

車間距離切り替え
スイッチ ＊ P. 140

クルーズコントロールスイッチ ＊ P. 137

レーダークルーズコントロールスイッチ ＊ P. 140

トークスイッチ※

D

VSC OFF スイッチ P. 150

F- スポーツモードトータルコントロールスイッチ P. 111, 151

E

インストルメントパネル照度調整ダイヤル P. 121

サテライトスイッチ P. 180

フロントワイパーデアイサースイッチ ＊※

トランクオープナー P. 40

給油口オープナー P. 72

＊：オプションなどで異なる装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

ほかの車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 89）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

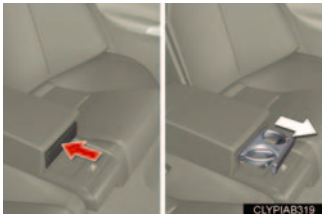
知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。



操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

1-1. キーの取扱い
キー..... 20

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた
スマートエントリー＆スタートシステム 24
ワイヤレスリモコン 34
ドア..... 36
トランク..... 40

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた
フロントシート 44
ドライビングポジションメモリー（運転席）..... 45
シートポジションメモリー（助手席）..... 49
ヘッドレスト 51
シートベルト 53
ハンドル..... 58
インナーミラー 60
ドアミラー 61

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方
パワーウインドウ 64
ムーンルーフ 67

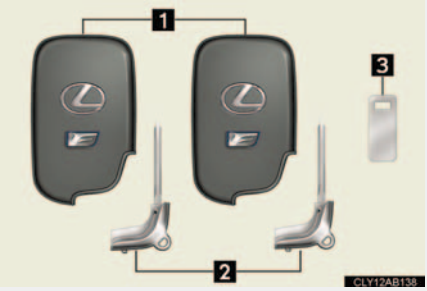
1-5. 給油のしかた
給油口の開け方..... 72

1-6. 盗難防止システム
エンジンイモビライザーシステム 76
オートアラーム..... 77

1-7. 安全にお使いいただくために
正しい運転姿勢..... 80
SRS エアバッグ..... 81
チャイルドシートの取り付け 89

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 24）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 34）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

■ カードキー

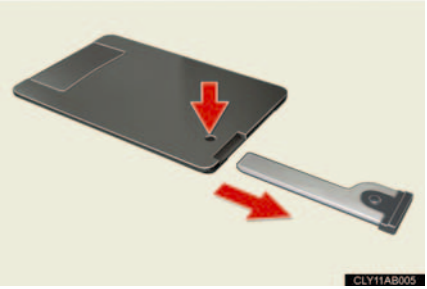
1 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 24）

2 メカニカルキー

カードキーには、使用方法などが記されたインフォメーションカードが同封されています。カードキーとともに携帯していただくことをおすすめします。

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは差し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きをかえて差し込んでください。

使用後は元にもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 275)

知識

■カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。

●電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

●カードキーは非防水です。

■駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。（→P. 40, 172）
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない

●分解しない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

注意

■カードキー取り扱いの注意

●メカニカルキーをカードキーに差し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。

●電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

■電子キー取り扱いの注意

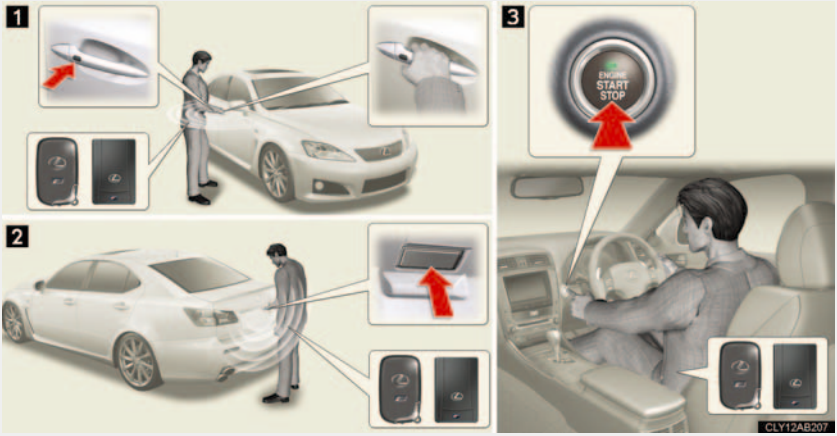
電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

●電池交換時以外は不用意に分解はしないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

●必ず日本国内でご使用ください。

スマートエントリー＆スタートシステム

電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。
（必ず運転者が携帯してください。）

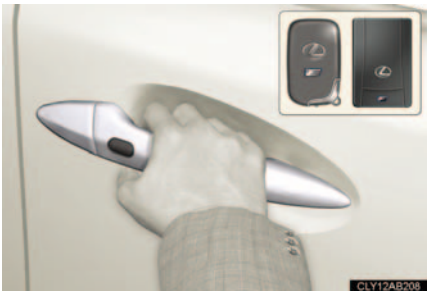


1 ドアの施錠・解錠　（→P. 25）

2 トランクの解錠　（→P. 25）

3 エンジンの始動　（→P. 106）

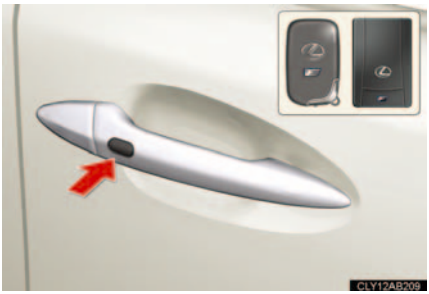
ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

長押しするとドアガラスとムーンルーフ*が閉まります。

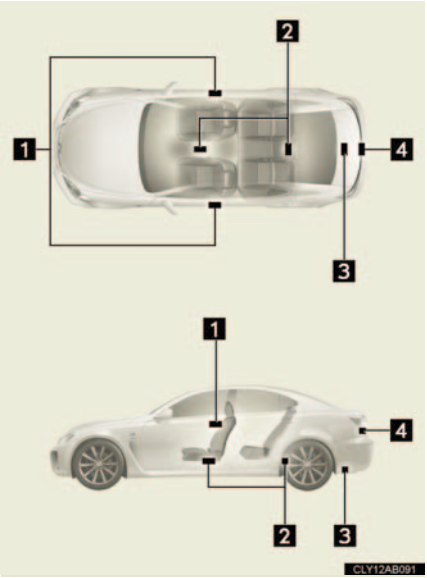
トランクの解錠

スイッチを押して解錠する

*：オプションなどで異なる装備

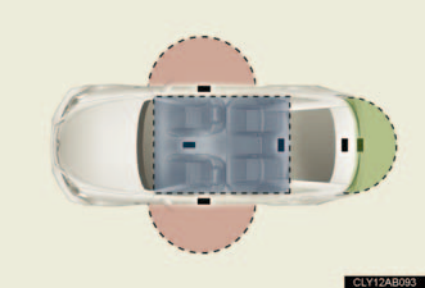
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



1 車外アンテナ
2 車内アンテナ
3 トランク内アンテナ
4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 275）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したたばこの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・ＣＤ や ＤＶＤ などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
  - ・ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコンや携帯情報端末（ＰＤＡ など）
  - ・デジタルオーディオプレーヤー
  - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

■解錠ドアの切替機能

スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する。（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P. 77）

手順 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに、 と同時に、 、 のいずれかを約 5 秒間押し続ける。

操作をおこなうごとに以下のように設定が切り替わります。（続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手をはなした後 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください。）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピッピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピッピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	

手順 4 ワイヤレスリモコンでドアを解錠し、いずれかのドアを開ける。

を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 77）

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

●30 日以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 34）

●メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 275）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 年半程度で消耗します。）

●電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P. 233）

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯したうえで作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・トランクの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート確認機能を使用して、ドアやトランクの施錠、非常点滅灯の消灯を確認できます。
- うっかり通知・リモート確認機能は車内の電子キーの検知を利用しています。そのためスマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知・リモート確認機能が正しく働かないことがあります。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」をご覧ください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤ席後方のパッケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）

●手袋を装着していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠をおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度元の位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P. 251）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーを P 以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■**スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは**

●ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 275

●エンジン始動：→P. 276

■**電池が切れたときは**

→P. 233

■**販売店で設定可能な機能**

作動合図の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 293）

警告

■**電波がおよぼす影響についての警告**

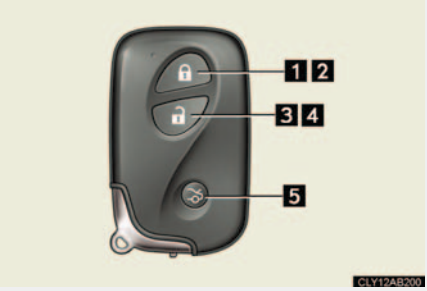
●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



1 全ドア施錠
2 ドアガラスとムーンルーフを閉める（押し続ける）＊
3 全ドア解錠
4 ドアガラスとムーンルーフを開く（押し続ける）＊
5 トランク解錠（長押し）

＊：レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■**作動の合図**

ドア　　：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■**オートアラームについて**

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 77）

■**半ドア警告ブザー**

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■**G-Link（ご契約のお客様のみ）**

うっかり通知機能によって、施錠忘れ・トランクの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート確認機能を使用して、ドアやトランクの施錠、非常点滅灯の消灯を確認できます。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」をご覧ください。

＊：オプションなどで異なる装備

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 32

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 27

■電池の消耗について

→P. 29

■電池が切れたときは

→P. 233

■販売店で設定可能な機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 293）

ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

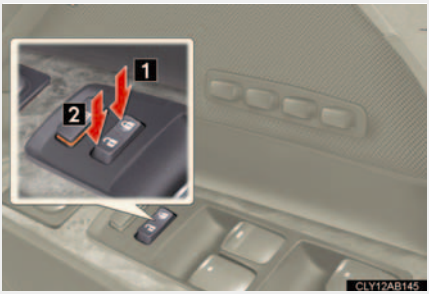
■ スマートエントリー＆スタートシステム

→P. 25

■ ワイヤレス機能

→P. 34

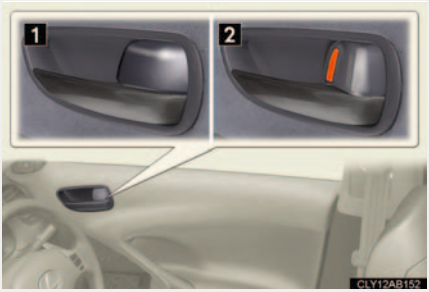
■ ドアロックスイッチ



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする。

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める。

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

LOCK 側にすると、リヤ席ドアが内側から開かなくなります

お子さまが内側からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアのチャイルドプロテクターを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	シフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッションONモードにする（その後10秒以内に手順2をおこなう。）

手順 2

シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約５秒間押してはなす。

設定をおこなう機能によってシフトレバーとスイッチの位置を以下の表から選択します。
機能を解除するには、同じ手順をおこないます。

機能	シフトレバーの位置	運転席側ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	🔒
シフト連動オートアンロック		🔓
車速感応オートロック	N	🔒
運転席ドア連動オートアンロック		🔓

設定または解除の切り替え操作が完了すると、すべてのドアが施錠された後、解錠されます。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧→ P. 293）

警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

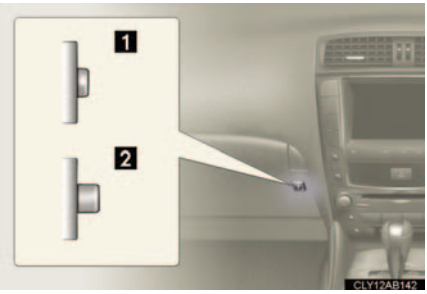
トランクオープナースイッチを押して、トランクのロックを解除する

■ 車外からトランクを開けるには

▶ スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 25

▶ ワイヤレス機能
→P. 34

トランクオープナーを使用できなくするには



グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

1 ON

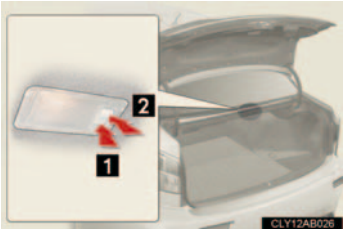
2 OFF

ワイヤレス機能、スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■トランクライト

スイッチを ON に設定しておくとトランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。



1 ON

2 OFF

■トランクグリップ

トランクを引き下げるときにお使いください。

引き下げるときは、トランクグリップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）

トランク内に電子キーを置いたままトランクリッドを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクリッドの解除スイッチで開けられます。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

うっかり通知機能によって、施錠忘れ・トランクの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート確認機能を使用して、ドアやトランクの施錠、非常点滅灯の消灯を確認できます。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」をご覧ください。

警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまをのせているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**トランクの使用にあたって**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

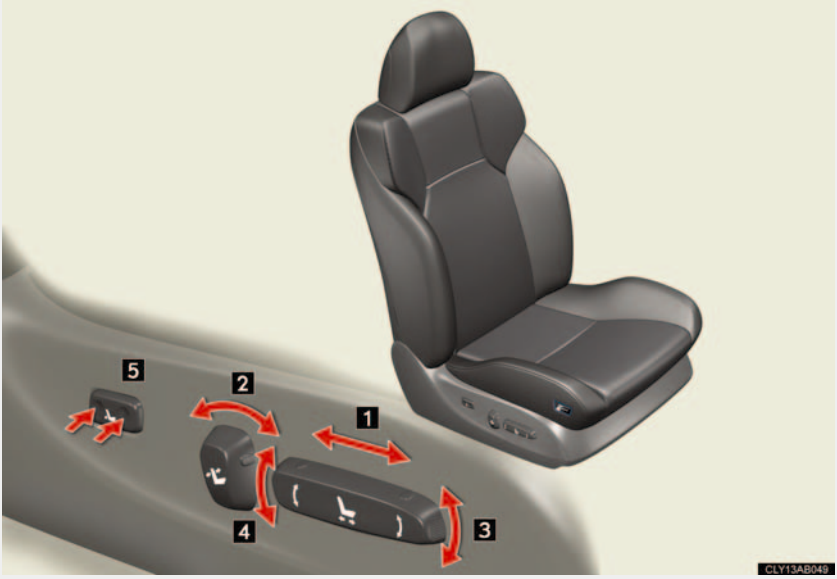
- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

フロントシート



1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 クッション前端の上下調整
4 シート全体の上下調整
5 腰部硬さ調整（ランバーサポート）

警告

■ **リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。

ドライビングポジションメモリー（運転席）

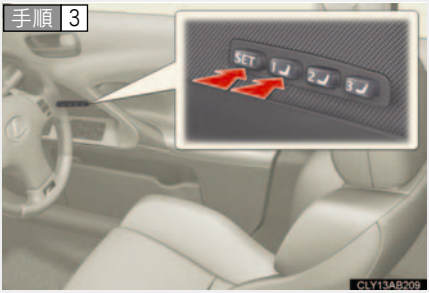
お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドル、ドアミラーの位置）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。
ドライビングポジションは 3 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 運転席、ハンドル、ドアミラーを好みの位置に調整する。

手順 3



SET ボタンを押した後、3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

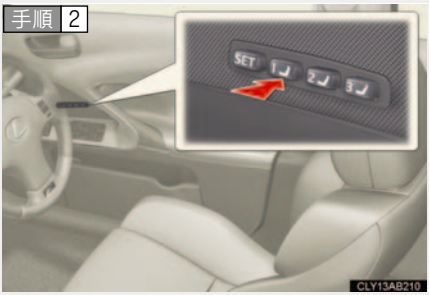
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーが P の位置にあることを確認します。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2



1 ～ 3 のうち呼び出したいボタンを押す。

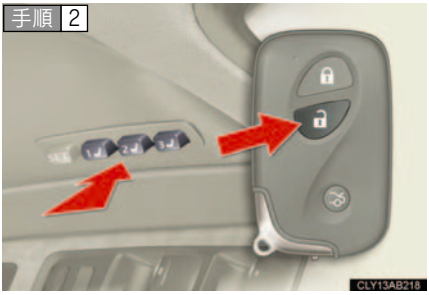
ドアの解錠と連動させるには

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの 🔓 をブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレス機能でドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

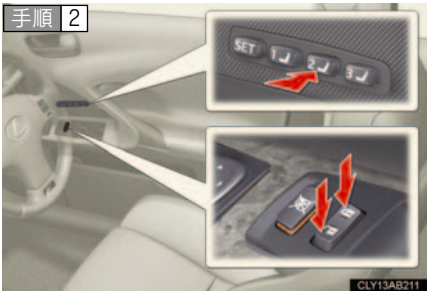
手順 3 いずれかのドアを開ける。

🔓 を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 77）

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが２つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



手順 2 1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチ（運転席側）の施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの 🔓 ボタンをブザーが鳴るまで押す。
ドアロックスイッチで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

■“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にした後でも、運転席ドアを開けて 180 秒以内またはそれまでに再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

■バッテリーの接続が断たれたときは

記憶したポジションが消去されるため、再設定が必要となります。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

シートポジションメモリー（助手席）

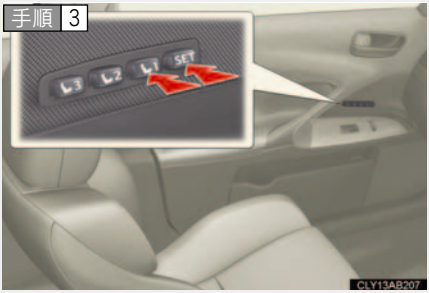
お好みの助手席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。
シートポジションは 3 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 助手席を好みの位置に調整する。

手順 3



SET ボタンを押した後、3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーが P の位置にあることを確認します。

1 ～ 3 のうち呼び出したいボタンを押す。

知識

■**“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動**

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にした後でも、助手席ドアを開けて 180 秒以内ならポジションの呼び出しができます。

■**ポジションの呼び出し作動を止めるには**

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する

■**バッテリーの接続が断たれたときは**

記憶したポジションが消去されるため、再設定が必要となります。

警告

■**シート調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

上下調整（フロント席）

1 上げる

2 下げる

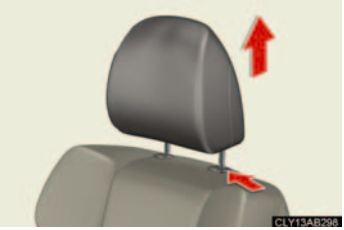
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

可倒（リヤ席）

解除ボタンを押しながらヘッドレストを上げると倒れます。

知識

■ヘッドレストの取りはずし（フロント席）



解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの取りはずし（リヤ席）

2 つの解除ボタンを同時に押しながら取りはずします。

■リヤ席について

倒した状態で使用しないでください。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

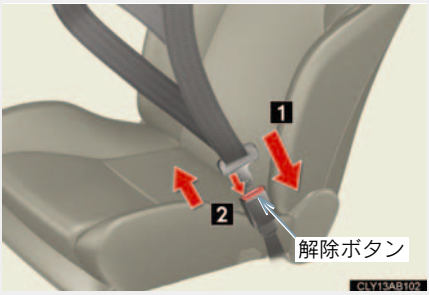
■ 正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



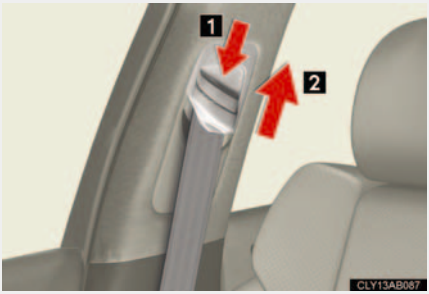
1 固定

“カチッ” と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

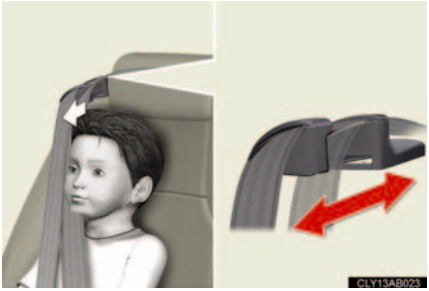


1 下がる（ボタンを押しながら下げます）

2 上がる

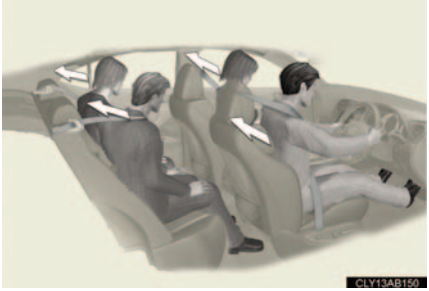
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトコンフォートガイド（リヤ席）



肩ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車のフロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻きこみ、乗員保護性能向上に寄与します。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 155）

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻き取らせてからゆっくりと引き出してください。また、シートベルトが格納状態でロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせばベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のあるかたの場合

医師に注意事項を確認のうえ、必ず正しく着用してください。(→P. 53)
妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

お車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 89)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 53)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動した後は、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

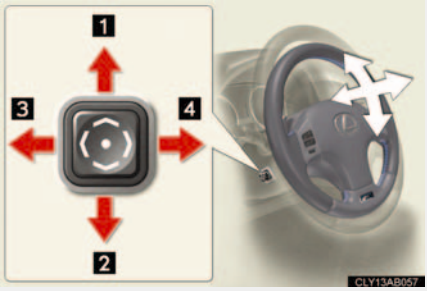
- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



1 上がる
2 下がる
3 前方に動く
4 手前に動く

オートアウェイ＆オートリターン機構

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが移動します。

“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにすると、元の位置にもどります。

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 45）

■販売店で設定可能な機能

オートアウェイ＆オートリターン機構の設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 293）

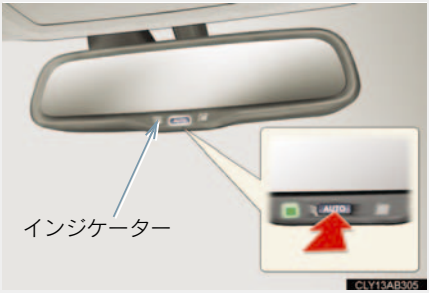
警告

■**走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

AUTO モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



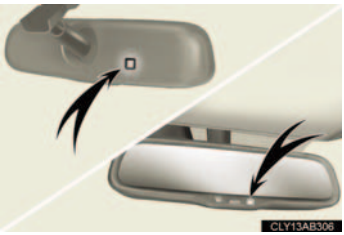
AUTO モードのオン／オフ切り替え

オンのときはインジケーターが点灯します。

AUTO モードがオフの状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしても、次に“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときには AUTO モードはオンになります。

知識

■センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

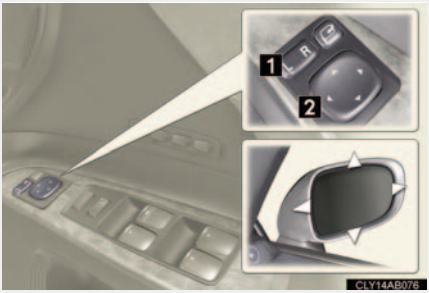
警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき、スイッチで鏡面の角度調整をします。



1 ミラーを選ぶ
（L：左、R：右）

2 スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する。

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してミラーを格納する

もう一度押すと、元の位置にもどります。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。）

■ミラー角度のワンタッチ調整

お好みのミラー角度を登録し、ワンタッチで調整できます。（→P. 45）

■ **リバース連動機能**

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしておくと、この機能は作動しません。

■ **レインクリアリングミラー**

雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。

■ **次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間当てると回復します。**

- ミラーの汚れを拭き取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
- 長期間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを元の位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

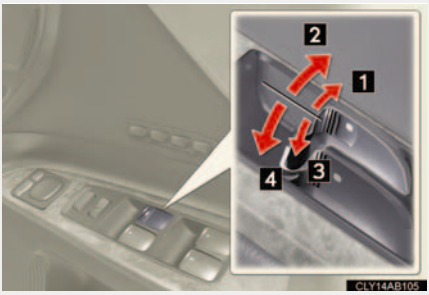
注意

■ミラーが凍結したとき

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、ミラーヒーターを作動させるか、温水をかけるなどして解氷してください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。(→P. 275)
- スマートエントリー＆スタートシステムでドアガラスを閉じることができます。(→P. 25)

■“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 293)

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

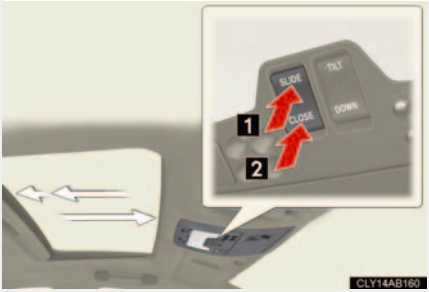
■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ/ダウンできます。

■ 開閉



1 ムーンルーフを開く※

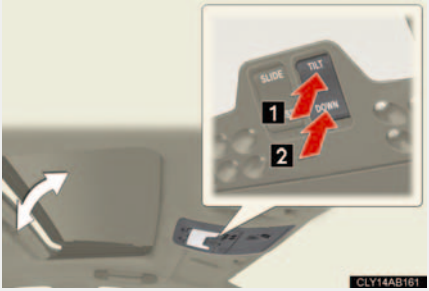
全開の手前の位置で止まります。

全開にしたいときはスイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウン



1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

*：オプションなどで異なる装備

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。（→P. 275）
- スマートエントリー＆スタートシステムでムーンルーフを閉じることができます。（→P. 25）

■“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■風切音の低減機能

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 2 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 スイッチの“TILT”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 2 スイッチから一度手をはなし、再度“TILT”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※1 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※2 １０秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“TILT”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 293）

警告

■**ムーンルーフを開けているときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■**ムーンルーフを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。

●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

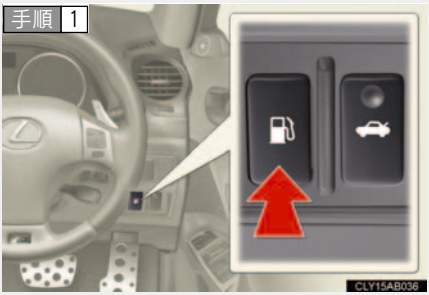
以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にして、ドアとドアガラスを閉めてください。

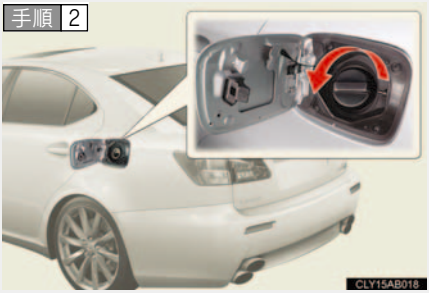
■ 給油口の開け方

手順 1



給油口オープナーを押す

手順 2

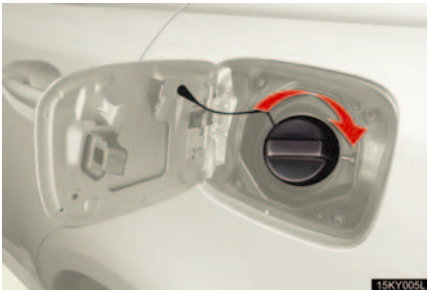


キャップをゆっくりまわして開ける

手順 3

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手をはなすと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

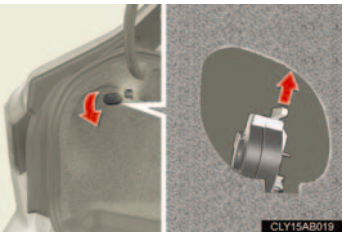
■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

64 L

■給油口が車内から開けられないときは



バッテリーがあがったりその他の原因で給油口が開けられないときは、トランク内のレバーを引きます。

警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油をおこなうと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■キャップ交換時の警告

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■給油するときは

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）やほかの燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

知識

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属性のものに接したり、覆われているとき
- ●キーがほかの車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、キーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- オートアラームがセットされているときにボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、すべてのドアを施錠します。30 秒経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームを解除・作動を停止するには

以下のいずれかをおこなってください。

- ドアまたはトランクを解錠する。
- “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにする。（数秒後に解除、停止します）

侵入センサーの作動について

侵入センサーとは、電波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知した場合、警報するシステムです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

侵入センサーの作動を停止するには

サテライトスイッチで侵入センサーの作動を停止することができます。（→P. 180）

知識

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。
オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。

- 車内に残った人が、ドア、トランク、ボンネットを開けたとき
- 施錠後、バッテリーあがりなどで、バッテリーの充電、交換をしたとき

■侵入センサーの作動停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサー作動停止状態で、“エンジンスタートストップ” スイッチを押すか、ワイヤレス機能による解錠操作がおこなわれると作動可能状態に復帰します。

■侵入センサーの自動復帰について

再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

*：オプションなどで異なる装備

■侵入センサーの作動について

次のような場合には、侵入センサーが働き、オートアラームが作動することがあります。

- 車内に乗員やペットなどを残して、車両から離れる場合
- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合
- ドアガラスやムーンルーフ*などが開いている場合
- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき
- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき
- アルミ蒸着された霜除けシートが風などで動いたとき

■バッテリーをはずすときは

オートアラームを解除してください。
オートアラームを設定したままバッテリーをはずすと、バッテリーを再接続したときにオートアラームが作動します。

■販売店で設定可能な機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 293）

⚠注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

*：オプションなどで異なる装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 44）

2 シートをペダルが十分に踏みこめるようなシート位置にする（→ P. 44）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 58）

5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 51）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 53）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

●フロント席の下に物を置かないでください。
物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

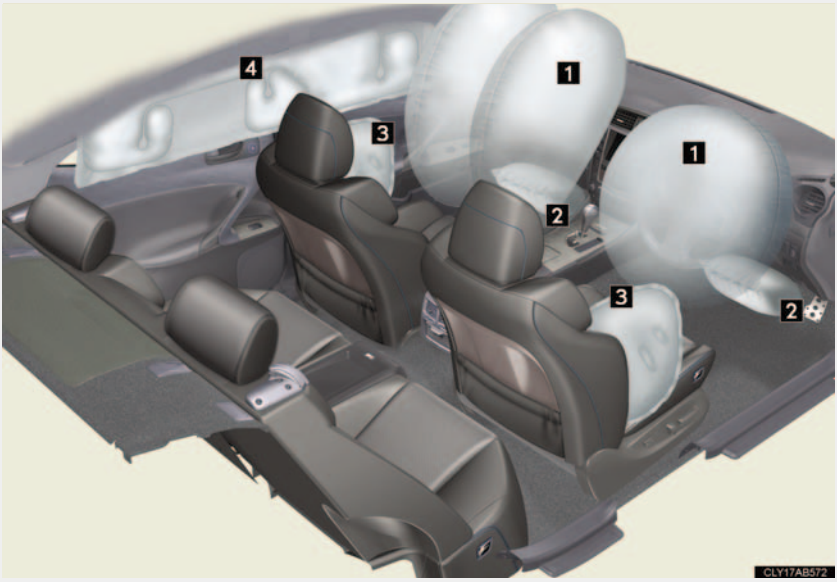
■シートを調整するときは

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

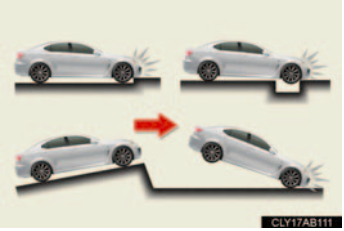
- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラー、リヤピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドル、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

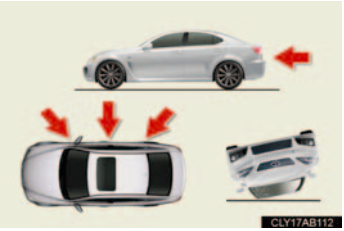
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■フューエルポンプシャットオフシステム

エンスト時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムを作動させて燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてからエンジンを始動します。

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

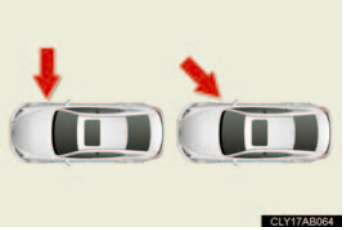
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

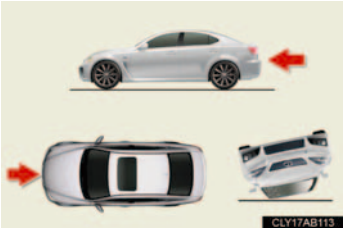
■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

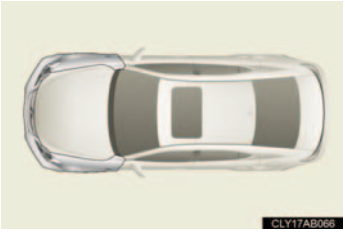


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

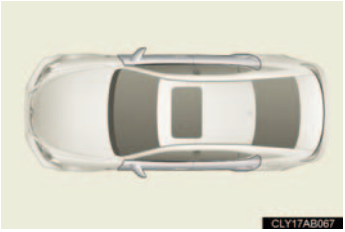
■レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。
レクサス販売店に連絡する前にバッテリーのケーブルをはずさないでください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

- ハンドルのパッド部分や助手席　SRS　エアバッグのカバー部、インストルメントパネル下部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合はとくに危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

警告

■SRS エアバッグについて

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

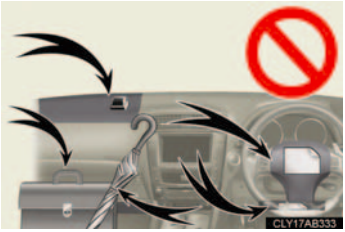
●ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。（→ P. 89）

●助手席でドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

警告

■SRS エアバッグについて



●ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。

●ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

●SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRSエアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラー部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造

●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造

●グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウィンチなどの取り付け

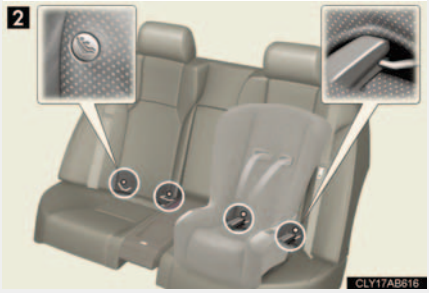
●サスペンションの改造

●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

1 シートベルトによる取り付け
（→ P. 90）



2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー
（→ P. 91）

リヤシートに装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。）

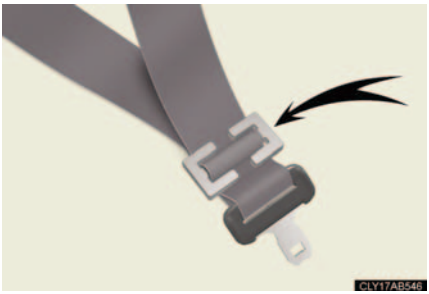
3 トップテザーアンカー
（→ P. 91）

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

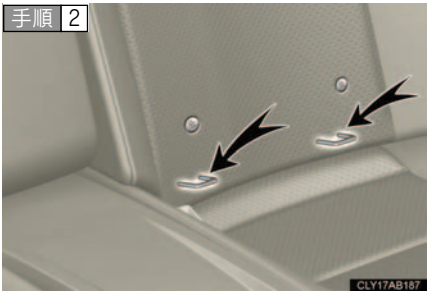
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

手順 1

ヘッドレストを元の位置にもどす。

手順 2



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する。

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

手順 3

チャイルドシートをシートに取り付ける。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書にしたがってください。

手順 4

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されているか確認します。

手順 5

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、IS F 指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のレクサス純正チャイルドシート）を取り付けることができます。チャイルドシートの選択にあたってはレクサス販売店にご相談ください。

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、子供がフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●リヤ席に取り付ける場合、ヘッドレストが倒れた状態でないことを確認してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

警告

■チャイルドシートについて

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。
うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警告

■チャイルドシートについて

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首からはなすとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→ P. 90, 91）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 98
エンジン（イグニッション）
スイッチ..... 106
オートマチックトランス
ミッション 110
方向指示レバー 117
パーキングブレーキ 118
ホーン（警音器）..... 119

2-2. メーターの見方

計器類..... 120
表示灯／警告灯 123
マルチインフォメーション
ディスプレイ 126

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ 129
フォグライトスイッチ 132
ワイパー＆ウォッシャー.... 134

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール 137
レーダークルーズ
コントロール 140
運転を補助する装置 149
プリクラッシュ
セーフティシステム 155

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意..... 161
寒冷時の運転 163

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 106）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。（→P. 110）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 118）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 110）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 118）

手順 3 シフトレバーを P にする。（→P. 110）

手順 4 “エンジンスタートストップ” スイッチを押してエンジンを止める。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが働きます。(→P. 149)

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

■発進するときは

ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

- 燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 走行中に決してシフトレバーを P・R・N の位置に動かさないでください。
  機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。
- 走行中はシフトレバーを N にしないでください。
  N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。
  パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→ P. 111，112）
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルに足を置いてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後は排気管またはバンパー一体エキゾーストディフューザーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**ブレーキをかけるときは**

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、ほかの車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

注意

■運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 264 をご覧下さい。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作をおこなうことで、エンジンの始動またはモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む。

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。
緑に点灯しないとエンジンは始動しません。

手順 4

“エンジンスタートストップ”スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

■“エンジンスタートストップ”スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まず“エンジンスタートストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります。）

1 OFF＊

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

＊：シフトレバーがP以外のときはOFFになりません。

知識

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 76）

■“エンジンスタートストップ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ” スイッチが自動で OFF になります。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 29

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 233

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 27

■ご留意いただきたいこと

→P. 31

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“エンジンスタートストップ” スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジンスタートストップ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると、予期せぬ事故につながる可能性があります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

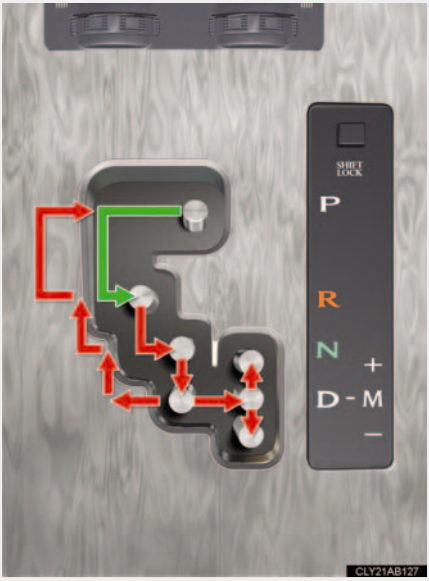
■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方およびシフトポジション



“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

シフトポジション	目的
P	駐車／エンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	M モード走行 （→P. 112）

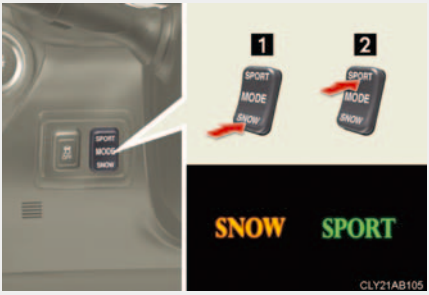
※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	ディスプレイ表示	目的	用途
		通常走行	（運転状況に応じた 1 速から 8 速までの自動変速）
	 （パドルシフトスイッチ操作時）	レンジの選択 （→P. 111）	エンジンブレーキ力の最適な使用
		ギヤ段の選択 （→P. 112）	運転者の選択したギヤ段でのスポーティな走行

■ 走行モードの選択

走行状況にあわせて以下のモードを選択できます。



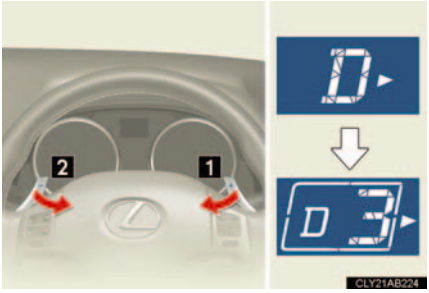
1 スノーモード（雪道など、すべりやすい路面での発進、走行）

2 「Sport」モード（→ P. 151）

モードを解除するときはもう一度、同じスイッチを押します。

D ポジションでのレンジ選択

パドルシフトスイッチの“－”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切り替わります。レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切り替えることができます。パドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 レンジアップ

2 レンジダウン

1 ～ 8 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

■ レンジ機能

メーター表示＊	機能
8	スピードや走行条件に応じて、1 速から 8 速のギヤが自動的に変わります。
7	スピードや走行条件に応じて、1 速から 7 速のギヤが自動的に変わります。
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

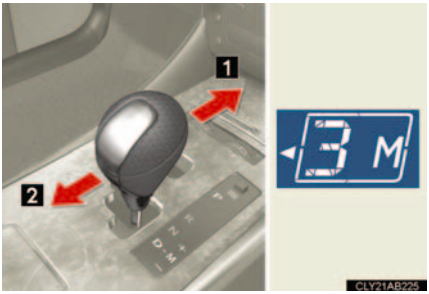
＊：シフトポジションを示す“D”も同時に表示します。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

M ポジションでのギヤ段選択

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切り替わります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でギヤ段を選択することができます。

▶ シフトレバー



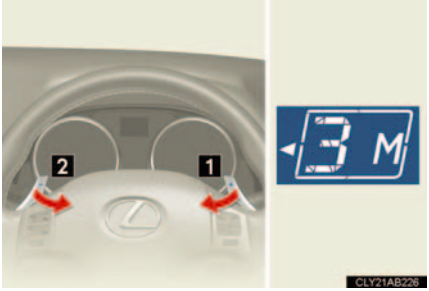
1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

1 ～ 8 速のあいだで選択されているギヤ段がメーターに表示されます。

▶ パドルシフトスイッチ



1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
1 ～ 8 速のあいだで選択されているギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジン冷却水が低温の場合

ギヤ段機能

メーター表示＊	機能
8	ギヤ段が 8 速に固定されます。
7	ギヤ段が 7 速に固定されます。
6	ギヤ段が 6 速に固定されます。
5	ギヤ段が 5 速に固定されます。
4	ギヤ段が 4 速に固定されます。
3	ギヤ段が 3 速に固定されます。
2	ギヤ段が 2 速に固定されます。
1	ギヤ段が 1 速に固定されます。

＊：シフトポジションを示す“M”も同時に表示します。

知識

■D ポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき

●D ポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したときの初期のレンジは、通常走行中のギヤ段より 1 段シフトダウンするレンジになります。

●6 レンジ以上でパドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき、走行状態に応じて 2 レンジ以上シフトダウンすることがあります。

■D ポジションでのレンジ選択の自動解除

以下のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●同一レンジで、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

■ＲＥＶ ブザー

エンジン回転数がレッドゾーンに近づくとシフトアップを促す警告ブザーが 1 回鳴ります。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが２回鳴ります。）

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R ポジションにシフトするとブザーが鳴り、R ポジションにあることを運転者に知らせます。

■クルーズコントロールを使って走行しているとき

D ポジションでのレンジ選択走行中に 7、6、5 レンジまたは 4 レンジへダウンしてもエンジンブレーキは効きません。（→P. 137、140）

■「Sport」モードとスノーモードの自動解除

「Sport」モードまたはスノーモードを選択して走行後、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにすると、「Sport」モードまたはスノーモードが自動で解除されます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 273

■シフトレバーを M にしても、M が表示されないときは

●イグニッション ON モードに切り替えてから数秒間はシステムチェックを実施します。システムチェック終了前にシフトレバーを M ポジションに操作しても、M モードには切り替わりません。この場合はしばらくしてから再度操作してください。

●上記以外の場合はシステム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■停車したときのギヤ段について

●停車すると自動的に 1 速にシフトダウンされ、1 速からの発進となります。

●暖機中のアイドリング回転数が高いとき、かつ路面がすべりやすい状態のときは、自動的に 2 速での停止、2 速からの発進となります。

■オートマチックトランスミッション油温の警告メッセージが表示されたときは

走行中にオートマチックトランスミッション油温の警告メッセージが表示されたときは、D ポジションの通常走行に切り替えたうえでアクセルをゆるめ、車速を落としてください。
安全な場所に車両を停止させ、シフトレバーを P ポジションにシフトして、警告メッセージが消灯するまでアイドリング状態にしてください。
消灯後、再び走行することができます。
しばらくしても消灯しないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切り替えます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき、自動的に作動します。
ただしパドルシフトスイッチの“－”側を操作すると機能が制限されます。
（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます。）

NAVI・AI-SHIFT：
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

警告

■**すべりやすい路面では**

急なアクセル操作やエンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキがかかる※
（再度踏み込むと解除される）

※右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

計器類

“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 電圧計

バッテリーの電圧を表示します。電圧が高すぎる場合と低すぎる場合に表示が点滅します。

3 シフトポジション・シフトレンジ／ギヤ段表示

現在選択されているシフトポジションと、シフトレンジもしくはギヤ段を表示します。（→P. 111、112）

4 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 126

5 エンジン油温計

エンジンオイルの温度を表示します。温度が高すぎる場合、表示が点滅します。

6 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

7 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

8 オドメーター

走行した総距離を表示します。

トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

9 燃料計

燃料残量を示します。

10 オドメーター／トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットボタン

ボタンを押すごとに表示が切り替わります。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離を 0 にもどします。

インストルメントパネル照度調整ダイヤル

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

1 暗くなる

2 明るくなる

知識

■インストルメントパネル照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になるとメーター照明が減光されます。ただし、インストルメントパネル照度調整ノブを右側いっぱいにまわした状態では、ライトスイッチが ON になってもインストルメントパネル照明は減光されません。また、このときナビゲーション画面は、夜画表示には切り替わりません。

警告

■低温時のシフトポジション・シフトレンジ／ギヤ段表示について

ディスプレイの温度が極めて低いときはシフトポジション･シフトレンジ／ギヤ段表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内をあたためてからご使用ください。
例えばギヤ段表示を使用した場合、シフトダウン操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切り替わらないことで運転者がシフトダウンしなかったと誤解し、再度シフトダウンすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害や死をもたらす事故につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

●以下のときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 281）

・水温計の針が H のレッドゾーンに入った
・エンジン油温計の表示が点滅した

■走行中の注意

エンジン回転中に電圧計の表示が点滅したときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

▶ センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 117）

尾灯表示灯（→P. 129）

ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 129）

フロントフォグライト
表示灯（→P. 132）

リヤフォグライト表示灯＊
（→P. 132）

SNOW 表示灯
（→P. 111）

SPORT
表示灯（→P. 111，151）

クルーズコントロール
表示灯（→P. 137，140）

クリアランスソナー表示灯＊
（→ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）

AFS OFF 表示灯
（→P. 130）

※
スリップ表示灯
（→P. 150）

※
VSC OFF 表示灯
（→P. 150）

※
TRC OFF 表示灯
（→P. 150）

※作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

＊：オプションなどで異なる装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。（→ P. 247）

※作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

＊：オプションなどで異なる装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

- トリップインフォメーション （→P. 126）

  航続可能距離や燃費など運転に関する情報を表示します。

- サテライトスイッチモード表示 （→P. 180）

  サテライトスイッチを使って各種機能の設定を変更できます。

- クリアランスソナー表示＊（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）

- レーダークルーズコントロール表示＊ （→P. 140）

  レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- 警告メッセージ （→P. 251）

  各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

トリップインフォメーション

項目を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

＊：オプションなどで異なる装備

■ 外気温

外気温度を表示します。

-40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

3°C 以下になると数字が 10 秒間点滅します。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均車速

エンジンをかけてから、またはリセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。

■ ギヤ段表示

D ポジションのとき、現在のギヤ段を数字で表示し、自動変速するギヤ段（許可ギヤ段）の範囲を・（ドット）で表示します。

左のイラストの場合、許可ギヤ段は 1 ～ 8 速で、現在のギヤ段は 3 速です。

M ポジションでは、“F” の表示をします。

知識

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内をあたためてからご使用ください。
例えばギヤ段表示を使用した場合、シフトダウン操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切り替わらないことで運転者がシフトダウンしなかったと誤解し、再度シフトダウンすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害や死をもたらす事故につながるおそれがあります。

ライトスイッチ

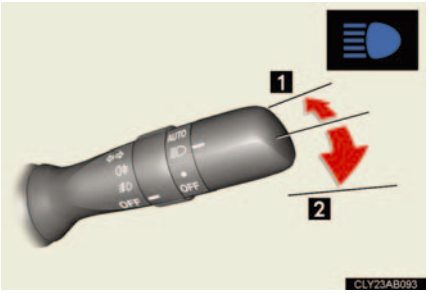
自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯

上記ライトとヘッドライトを点灯

AUTO ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯
（“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき）

ハイビームにする



1 ライト点灯時ハイビームに切り替え

レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどるまたは消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

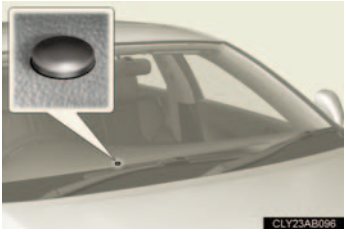
■ AFS を OFF にするには

切り替え方法：→P. 180

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。

知識

■ライトセンサー



センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 293）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ

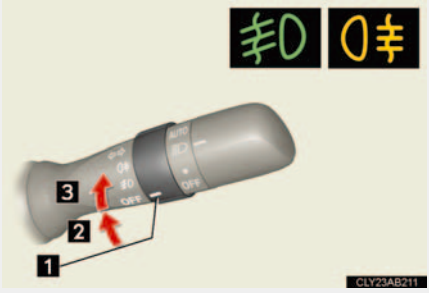
雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。（リヤフォグライトはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。）

■ フロントフォグライトスイッチ

1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

■ フロント＆リヤフォグライトスイッチ*



1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

3 フロント＆リヤフォグライト点灯　（再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯）

手をはなすと の位置までもどります。

*：オプションなどで異なる装備

知識

■リヤフォグライトについて

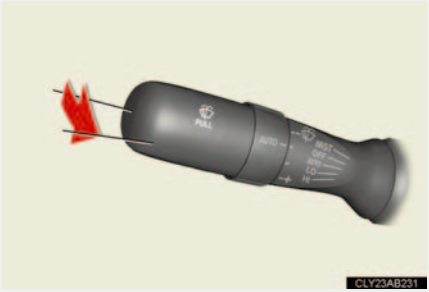
●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

AUTO を選択しているとき、雨滴量に応じてワイパーが作動します。

1 雨滴感知オート作動（AUTO）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）



ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。（数回作動した後、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。）

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■車速による作動への影響

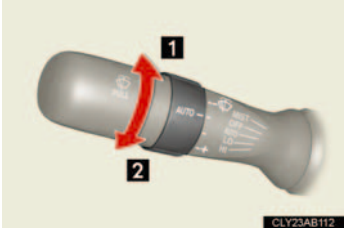
AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。

■AUTO 作動について

雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。



ツマミをまわすとセンサーの感度が調整できます。

1 感度が下がる（－）

2 感度が上がる（＋）

■ワイパー連動機能

ワイパーを作動させると、ミラーヒーターが作動します。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■販売店で設定可能な機能

液だれ防止作動の設定などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 293）

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

■ 速度を設定する

手順 1

ON-OFF スイッチを ON にする

OFFにするには再びON-OFFスイッチを押します。

手順 2

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

* : オプションなどで異なる装備

■ 設定速度を変える

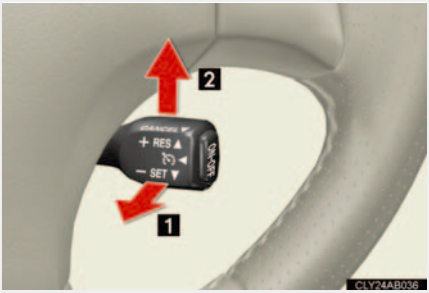
1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整（約 1.5 km/h ずつ）できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

知識

■設定条件について

- シフトレバーがDポジションにあるとき、クルーズコントロールを設定できます。ただし、パドルシフトスイッチを操作し、1 レンジから 3 レンジのいずれかを選択しているときは設定できません。
- 車速は約 40 ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

以下のとき自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●速度が約 40 km/h 以下になった

●車が横すべりして VSC が働いた

●シフトレバーを M ポジションへシフトした

●シフトレバーが D ポジションにあるとき、パドルシフトスイッチを操作し、1 レンジから３レンジのいずれかへシフトダウンした

■定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチを OFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂

レーダークルーズコントロール*

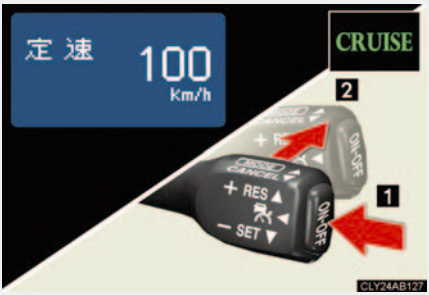
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行をおこなったり、定速制御モードで一定の速度で走行することを補助します。

■ 制御モードを選択する

車間制御モードを選択する

メインスイッチを ON にする

OFF にするには再びメインスイッチを押します。



定速制御モードを選択する

1 メインスイッチを ON にする

2 定速制御モードに切り替え（約 1 秒間長押し）

OFF にするには再びメインスイッチを押します。

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

*：オプションなどで異なる装備

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する

希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

■ 設定速度を変えるには

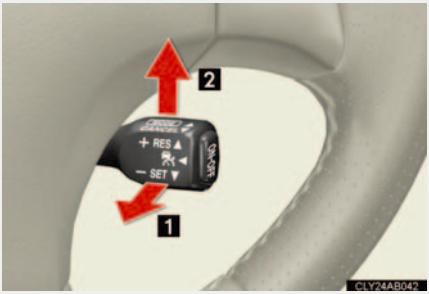
1 増速

2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

定速制御中は、レバーを上または下に軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整（約 1.5 km/h ずつ）できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除

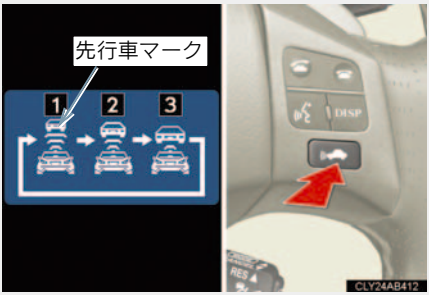
レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰（車間制御モード解除時のみ）

レバーを上げると、定速走行にもどります。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替え

1 長い

2 中間

3 短い

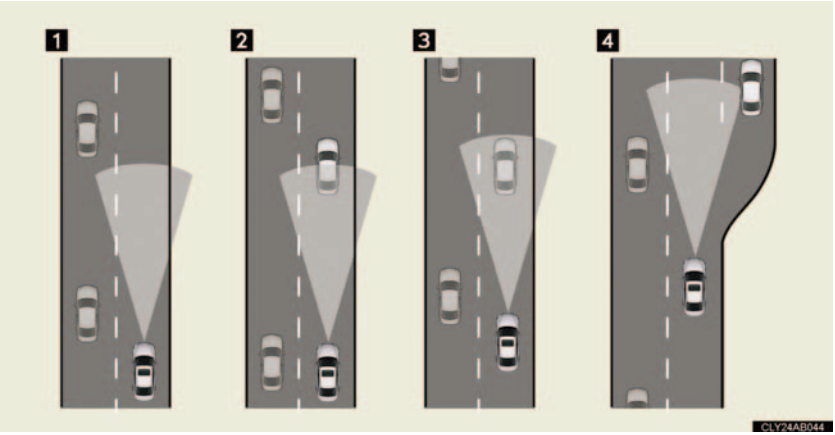
“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行（先行車がいないとき）：
100 km/h に設定した場合

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行（設定した車速より遅い先行車が現れたとき）：
100 km/h で定速走行時に、80 km/h の先行車がいる場合

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。（→P. 251）

3 追従走行（設定した車速より遅い先行車に追従するとき）：
100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいる場合

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）：
100 km/hに設定しているときに、80 km/hの先行車がいなくなった場合

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

知識

■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示・警報

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示、警報で注意を促します。（→P. 251）

■設定条件について

- シフトレバーが D ポジションにあるとき、レーダークルーズコントロールを設定できます。ただし、パドルシフトスイッチを操作し、1 レンジから 3 レンジのいずれかを選択しているときは設定できません。
- 車速は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

以下のようになったとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

- 速度が約 40km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が働いた
- センサーが何かで塞がれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した
- F- スポーツモードトータルコントロールスイッチをスノーモードにセットした
- シフトレバーを M ポジションへシフトした
- シフトレバーが D ポジションにあるとき、パドルシフトスイッチを操作し、1 レンジから３レンジのいずれかへシフトダウンした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

以下のようになったとき、自動的に定速制御による走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●速度が約 40 km/h 以下になった

●車が横すべりして VSC が働いた

●シフトレバーを M ポジションへシフトした

●シフトレバーが D ポジションにあるとき、パドルシフトスイッチを操作し、1 レンジから3レンジのいずれかへシフトダウンした

■車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 142)(時速 80 km/h で走行している場合)
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはメインスイッチを OFF にしてください。

警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御がおこなわれず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（大雨・霧・雪・砂嵐など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■レーダーセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 251）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の車両の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車両より水や雪が撒き散らされ、センサーの作動の妨げになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合

■レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルカバーには以下のことをしないでください。
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 何か貼ったり、取り付ける
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に後輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するとき、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS, ブレーキアシスト , TRC, VSC, ヒルスタートアシストコントロール、EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をする際に、ブレーキ、エンジン出力を制御することで、車両の姿勢維持に役立ちます。

F- スポーツモードトータルコントロールスイッチの “SPORT” 側を押すと「Sport」モードに切り替わります。（→P. 151）

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 155

* ：オプションなどで異なる装備

TRC、VSC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、後輪が空転したとき、坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

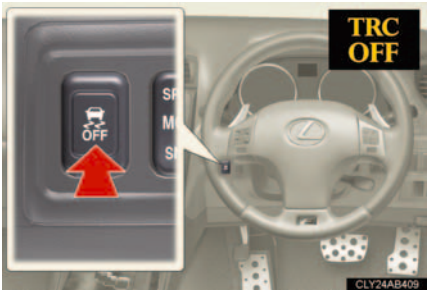
VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには



TRCを停止するにはスイッチを押します。

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するにはスイッチを押し 3 秒以上保持します。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。（ただし、TRC や VSC が作動しているときには、機能の停止はできません。）

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。（ただし、駆動輪がスリップしているときや車両が不安定な状態のときには、機能の再開はできません。）

F- スポーツモードトータルコントロールスイッチ

運転者が望むさまざまな運転を可能にするため２種類の制御モードを搭載し、F- スポーツモードトータルコントロールスイッチによって制御モードを選択することができます。
通常は「Normal」モードで安心してスムーズに走ることができます。
スイッチの “SPORT” 側を押すと、「Sport」モードに切り替わります。
ECT、EPS、VSC や TRC などの制御特性を調整することで、運転者のイメージにより近い運動性能を可能としながら、安心感を高いレベルで得ることができます。

「Sport」モード／「Normal」モード

「Sport」モードにすると、SPORT 表示灯が点灯します。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした後、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

●シフトレバーが D または M の位置にあるとき

●ブレーキペダルが踏まれていないとき

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音 (“ウィーン” という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度で元の状態にもどります。

■「Sport」モードの自動解除

「Sport」モードを選択して走行後“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にすると、自動で「Normal」モードにもどります。

■スリップ表示灯が点灯したときは

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

警告

■**ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■**スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 203）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

プリクラッシュセーフティシステム*

レーダーセンサーにより、前方の障害物と衝突が避けられないと判断したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどを作動させ、被害軽減に貢献します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 54)

■ プリクラッシュブレーキアシスト

ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

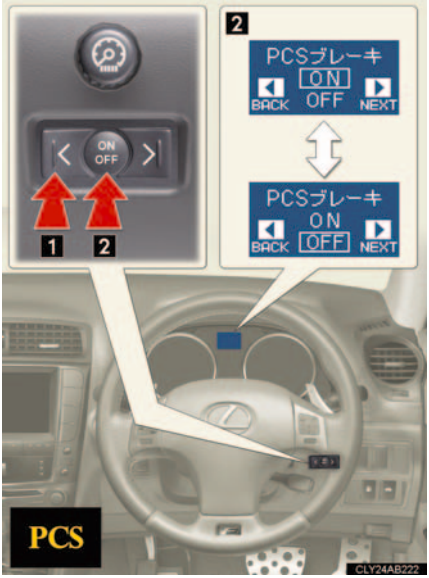
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。サテライトスイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

*：オプションなどで異なる装備

プリクラッシュブレーキの切り替え

サテライトスイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。（→P. 180）



サテライトスイッチの“<”または“>”を押して、PCS ブレーキの設定モードにする。（1）サテライトスイッチの ON/OFF ボタンを押して、ON または OFF に設定する。（2）

スイッチを押してから表示が切りかわるまで約３秒かかります。

OFF にすると PCS 警告灯が点滅します。

レーダーセンサー

走行中に路上またはその付近に車や物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

知識

■ **センサーが検知しない場合**

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■ **システムの作動条件**

● **プリクラッシュシートベルトの作動条件（ブレーキ連動方式）：**

・ 車速が約 30 km/h 以上
・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている

● **プリクラッシュシートベルトの作動条件（レーダー方式）：**

・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
・ 車速が約 5 km/h 以上
・ 自車からみた対向車か障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● **プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：**

・ 車速が約 30 km/h 以上
・ 自車からみた先行車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● **プリクラッシュブレーキの作動条件：**

・ プリクラッシュブレーキスイッチが ON になっている
・ 自車速度が約 15 km/h 以上
・ 自車からみた先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

●カーブ入り口に路側物があったとき

●カーブで、対向車とすれちがったとき

●狭い鉄橋を走行したとき

●路面に金属物があったとき

●凹凸のある路面を走行したとき

●右折時に対向車とすれちがったとき

●前を走っている車に急に近づいたとき

●ETC ゲートを高速で通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 247、251)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないます。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない。

●センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

警告

●センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

■プリクラッシュセーフティシステムの限界

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むときは

●以下の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・パッケージトレイ
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

急ブレーキや事故のときに、上記の場所に置いた物が飛散し、乗員がけがをするおそれがあります。
また、荷物が運転者の視界をさえぎったり、急加速や急旋回時に動いたりすることでブレーキペダルやアクセルペダルを正しく操作できなくなったり、運転者や乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、タイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下を引き起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）を用意してください。（→ P. 203）

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを用意してください。（タイヤについて→ P. 203）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

●19 インチタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。

●タイヤチェーンを装着するときはレクサス販売店にご相談ください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

●冬用タイヤは、一部の車輪のみではなく、すべての車輪に装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●50 km/h（一般路）または 30 km/h（氷雪路）を超える速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急ハンドル、急ブレーキを避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 168
・インテリアライト 169
・パーソナルライト 169

3-2. 収納装備の使い方

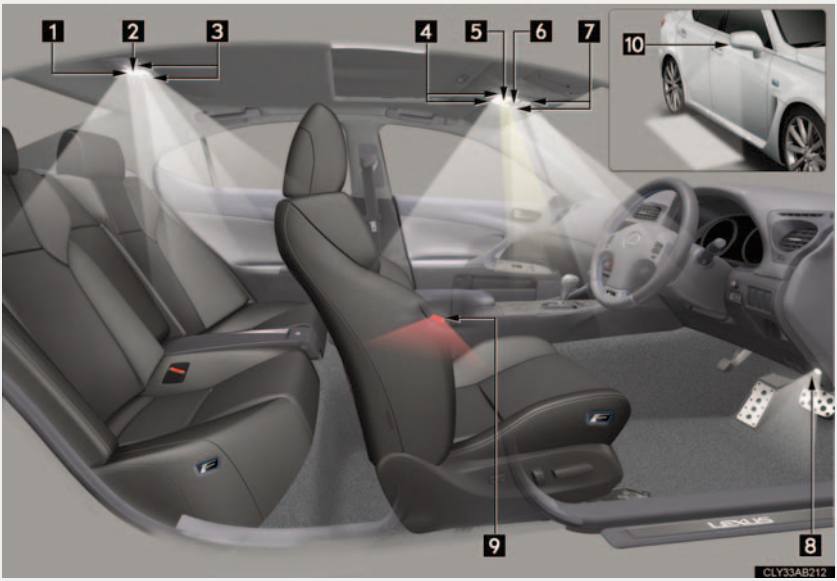
収納装備一覧 171
・グローブボックス 172
・コンソールボックス..... 173
・カップホルダー 174
・ボトルホルダー／
　ドアポケット 175
・小物入れ 176

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー 177
バニティミラー..... 178
時計 179
サテライトスイッチ..... 180
灰皿 183
シガレットライター..... 184
アクセサリーソケット..... 185
シートヒーター..... 186
アームレスト 188
トランクスルー..... 189
コートフック 191
フロアマット 192
トランク内装備..... 193

室内灯一覧

車の乗り降りがスムーズにできるように、イルミネーテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・解錠、ドアの開閉、“エンジンスタートストップ” スイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯します。

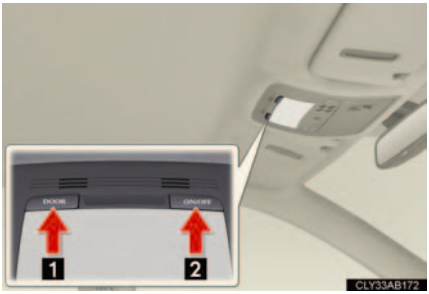


1 リヤインテリアライト
2 リヤおもてなし用インテリアライト
3 リヤパーソナルライト（→P. 169）
4 フロントインテリアライト（→P. 169）
5 フロントおもてなし用インテリアライト
6 シフト照明（“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モード）
7 フロントパーソナルライト（→P. 169）
8 フロント足元照明
9 フロントドアカーテシー照明
10 ドアミラー照明

インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、シフト照明とフロント足元照明が消灯します。

インテリアライト

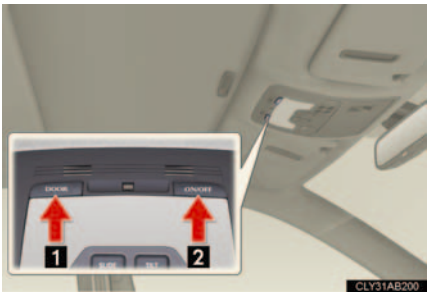
▶ ムーンルーフ非装着車



1 ドアポジション（ドア連動）ON/OFF

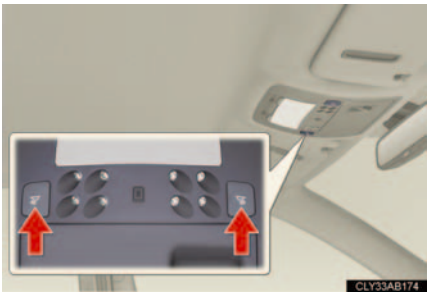
2 ON（点灯）/OFF（消灯）

▶ ムーンルーフ装着車



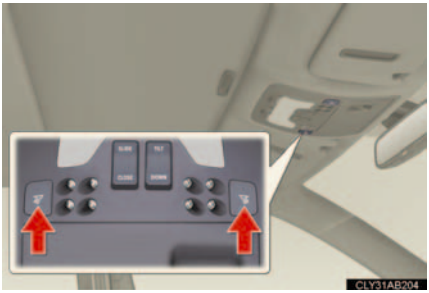
パーソナルライト

▶ フロント（ムーンルーフ非装着車）



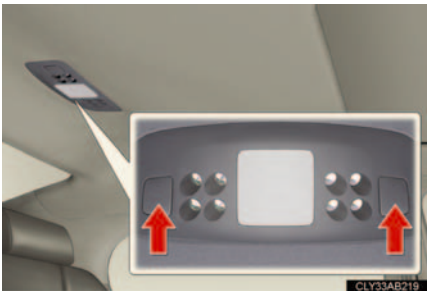
点灯／消灯

▶ フロント（ムーンルーフ装着車）



点灯／消灯

▶ リヤ



点灯／消灯

知識

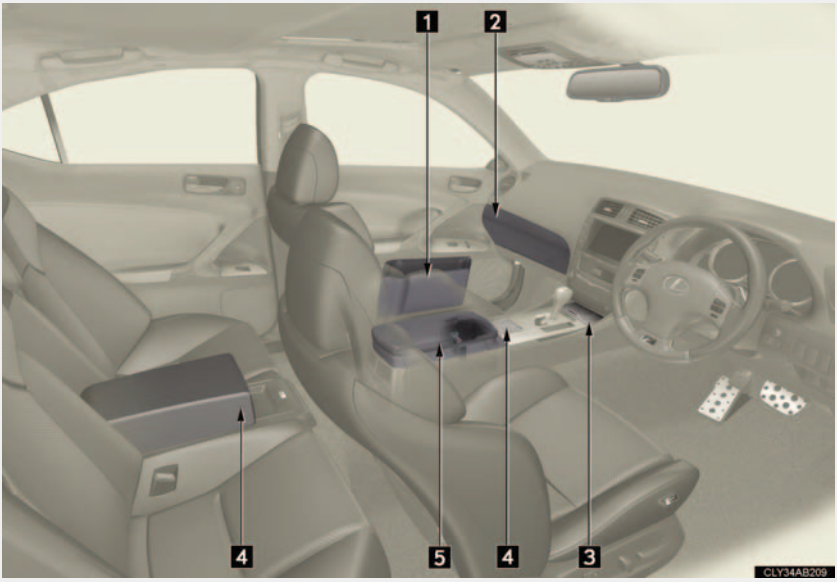
■**バッテリーあがりを防ぐために**

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、おもてなし用インテリアライトとインテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■**販売店で設定可能な機能**

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 293）

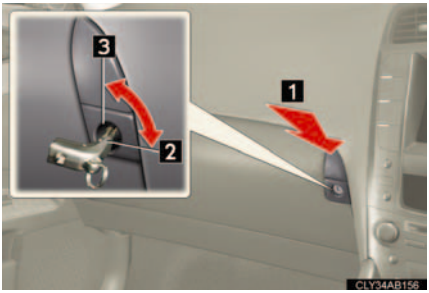
収納装備一覧



1 ボトルホルダー／ドアポケット
2 グローブボックス
3 小物入れ*
4 カップホルダー
5 コンソールボックス／カップホルダー

*：オプションなどで異なる装備

グローブボックス



1 開ける（ボタンを押す）
2 メカニカルキーで施錠
3 メカニカルキーで解錠

知識

■グローブボックスライト

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときは、グローブボックス内のライトが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

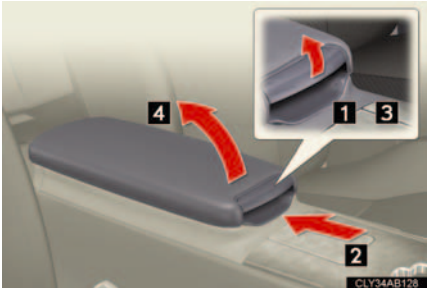
グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P. 40）

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス



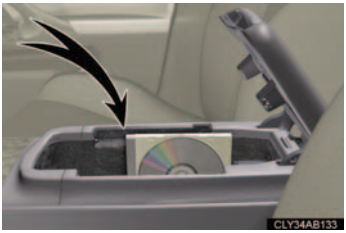
1 ノブを持ち上げてロック解除
2 スライド
3 ノブを持ち上げてロック解除
4 アームレストを持ち上げて開く

知識

■コンソールボックスライト

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのときは、コンソールボックス内のライトが点灯します。

■コンソールボックスへ CD ケースを入れるときは



CDケースのヒンジ部分をコンソールボックスの前方または後方に向けてCDケースを収納します。

警告

■走行中の警告

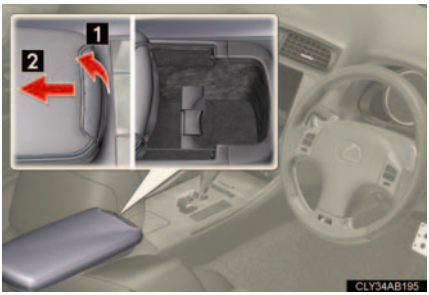
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント（プッシュ式）

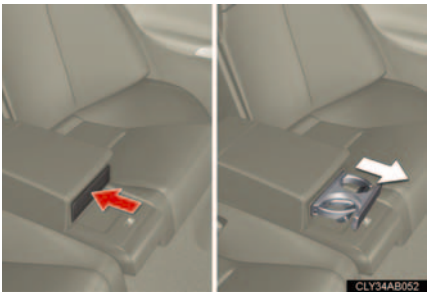
カップホルダーのふたの前側を押して開ける

▶ フロント（スライド式）



1 ノブを持ち上げてロック解除
2 アームレストをスライドする

▶ リヤ



リヤセンターアームレストのリヤカップホルダーを押して開ける

知識

■フロントカップホルダー（スライド式）を小物入れとして使う

ベース部分を持ってホルダーを取りはずします。

警告

■収納してはいけない物

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

ふた、またはカップホルダーを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふた、またはカップホルダーが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボトルホルダー／ドアポケット

ふたを開閉することができます。

ペットボトルを入れるときは、ふたを閉めてください。

警告

■走行中の警告

ドアポケットを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ*

ふたの後部を押して開けます。
閉めるときはもう一度ふたを押します。

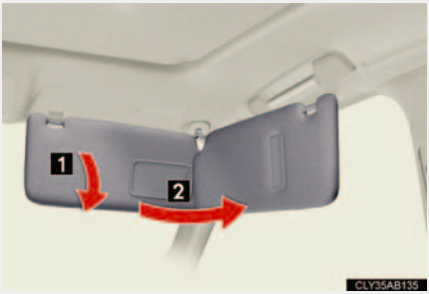
警告

■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：オプションなどで異なる装備

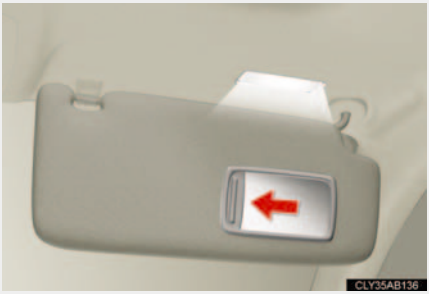
サンバイザー



1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

時計

1 “時” を調整する

2 “分” を調整する

3 “分” を 00 にする※

※（例） 1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

知識

■時刻が表示されるとき

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションONモードのとき

サテライトスイッチ

サテライトスイッチを使って、各種機能の設定を変更できます。設定内容はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

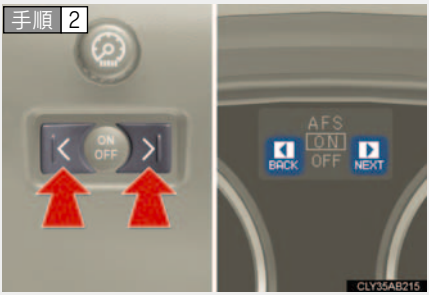
■ 操作のしかた

手順 1

マルチインフォメーションディスプレイにサテライトスイッチモードを表示する。

サテライトスイッチの“<”か“>”、またはON/OFFボタンのいずれかを押します。

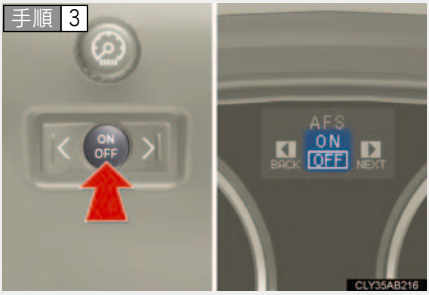
手順 2



設定を変えたい項目を選ぶ。

サテライトスイッチの“<”か“>”を押して、設定を変更したい項目を表示させます。

手順 3



設定を変更する。

ON/OFF ボタンを押して設定のオン / オフなどを変更します。

プリクラッシュブレーキの設定時は、ON/OFF ボタンを押してから表示が切りかわるまで約 3 秒かかります。

■ サテライトスイッチで設定できる項目

侵入センサー（→P. 77）のオン / オフ切り替え

クリアランスソナー※のオン / オフ切り替え＊

AFS（→P. 130）のオン / オフ切り替え

プリクラッシュブレーキ（→P. 155）のオン / オフ切り替え＊

＊：オプションなどで異なる装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

知識

■設定切り替えの条件

各項目は以下の状況のときのみ、設定を切り替えることができます。

●侵入センサー　：“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFで、オートアラームがセットされていないとき

●クリアランスソナー：“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

●上記以外の項目　：“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードで、停車しているとき

■ディスプレイの表示について

サテライトスイッチをしばらく操作しないと、元の表示にもどります。
また、サテライトスイッチモード表示中でも、警告内容が発生した場合やレーダークルーズコントロール*を使用した場合は表示が切り替わります。その場合は、サテライトスイッチのいずれかのスイッチまたはDISPスイッチを押すとサテライトスイッチモードにもどります。

*：オプションなどで異なる装備

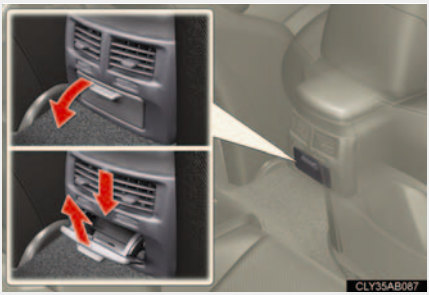
灰皿

▶ フロント*

ふたの後部を押して開けます。
閉めるときはもう一度ふたを押します。

取りはずすときは、レバーをスライドさせます。

▶ リヤ



ふたの上部を引いて開けます。

取りはずすときは、プレートを押さえて引き上げます。

警告

■**使用後について**

灰皿のふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停車により、けがをするおそれがあります。

■**出火を防ぐために**

●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

*：オプションなどで異なる装備

シガレットライター＊

灰皿のふたを開けて、シガレットライターを押し込む

元の位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションONモードのとき

警告

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
  ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

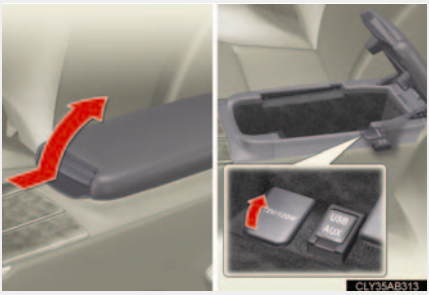
■使用後について

灰皿のふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停車により、けがをするおそれがあります。

＊：オプションなどで異なる装備

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



知識

■使用条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションONモードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

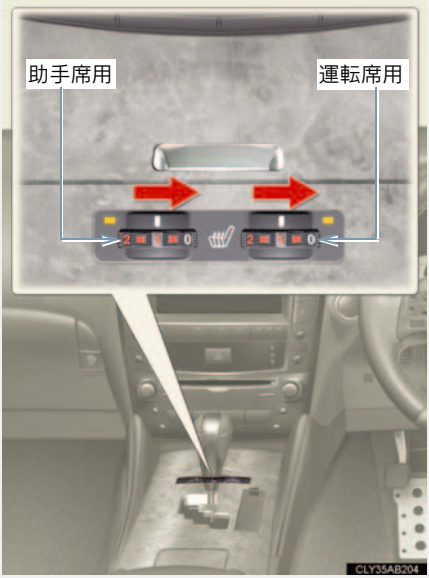
■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター



シートをあたためる

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

知識

■**作動条件**

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■**使用しないときは**

ダイヤルを“0”に合わせてください。インジケーターが消灯します。

警告

■**やけどについて**

●低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方はとくにご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
・皮膚の弱いかた
・疲労の激しいかた
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

●シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

注意

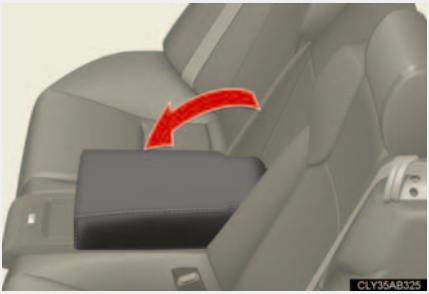
■**シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはダイヤルを“0”の位置にしてください。

アームレスト



引き出して使用します。

注意

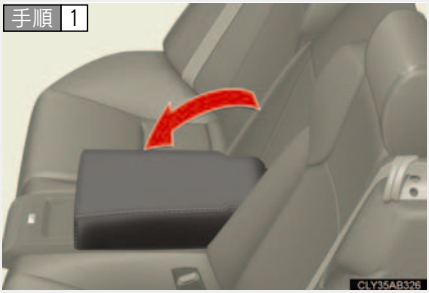
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

トランクスルー

トランクとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

手順 1

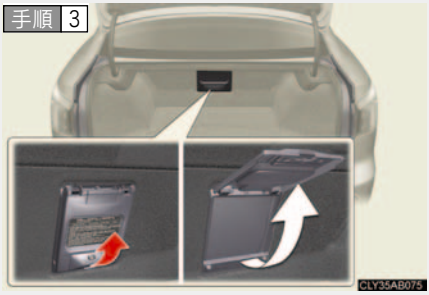


アームレストを倒す。

手順 2

トランクスルーカバーをめくる。

手順 3



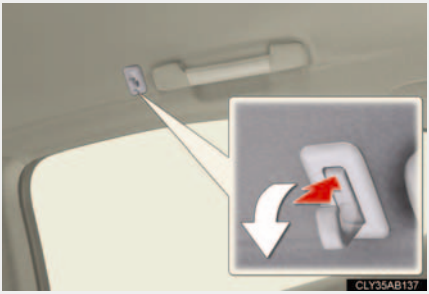
トランク側からトランクスルードアを開け、荷物を積む。

警告

■**使わないときは**

トランクスルードアを閉めておいてください。
急ブレーキをかけたときに収納していたものが車内に飛び出したり、けがをするおそれがあります。

コートフック



使用するときは、コートフックを押します。

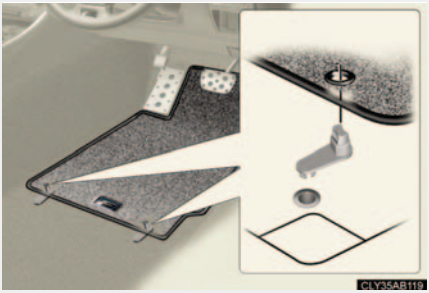
警告

■**コートフックへかけてはいけないもの**

ハンガーやほかの硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

フロアマット

お車に合ったものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。



カーペットには、フロアマットの固定クリップ取り付け用の穴があります。

警告

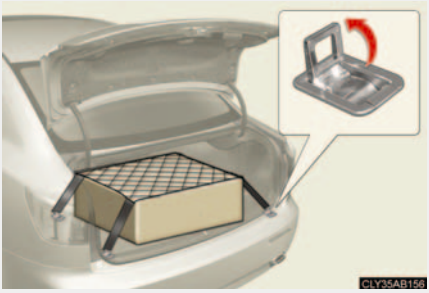
■**フロアマットを敷くときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがすべったり、運転中にペダルの操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●フロアマットを裏返して使用しない

●ほかのフロアマット類を重ねて使用しない

■ 荷物固定用フック



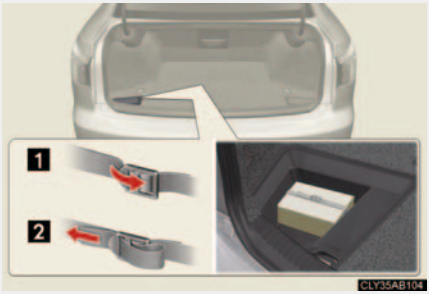
フックを起こして使用してください。

ラゲージネット※などを使って荷物を固定することができます。

※ ラゲージネットは、レクサス販売店で購入することができます。

■ 買い物フック

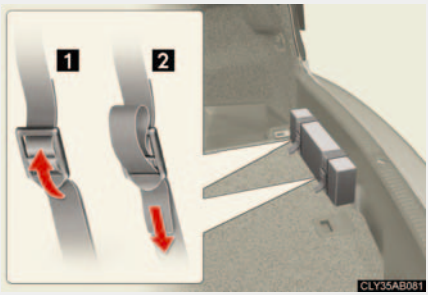
■ 救急箱等固定用バンド



1 ゆるむ

2 締まる

■ 三角表示板固定用バンド

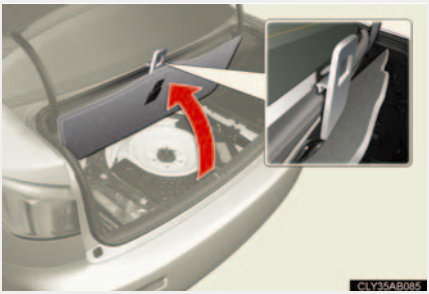


1 ゆるむ

2 締まる

■ ラゲージマット

レバーを上へ引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。



レバーはトランクの縁へかけることができます。

⚠ 警告

■荷物固定用フックを使用しないときは

必ず元の位置にもどしておいてください。

注意

■ **トランクを閉めるときは**

ラゲージマット上のレバーをトランクの縁へかけたままにしないでください。
ラゲージマットが損傷するおそれがあります。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 198
内装の手入れ 201
タイヤについて..... 203

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 207
ガレージジャッキ..... 209
エンジンルームカバー 211
電球（バルブ）の交換..... 213
ヒューズの点検、交換..... 223
電子キーの電池交換..... 233
ウォッシャー液の補給..... 235

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながらボデー、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- 洗車する前にワイパースイッチを“OFF”にしてください。

■高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ **ドアミラーの親水コーティングについて**

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

● シリコーンや研磨剤の入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す

● 晴天時に太陽光を１・２日間当てる

■ **塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために**

● 次のような場合はただちに洗車してください。

・ 海岸地帯を走行した後
・ 凍結防止剤を散布した道路を走行した後
・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行した後
・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

警告

■ **洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **排気管およびバンパー一体エキゾーストディフューザーについて**

排気管およびバンパー一体エキゾーストディフューザーは排気ガスにより熱くなりますので、エンジンがかかっているときや停止直後に触れないでください。洗車などで触れる場合は、十分に排気管およびバンパー一体エキゾーストディフューザーが冷えてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の損傷をさけるために

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ライトの清掃

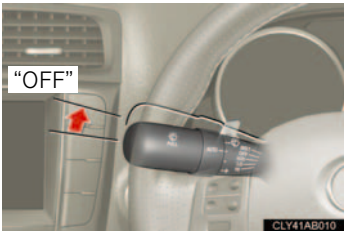
●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、元にもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■自動洗車機を使用するときは



ワイパースイッチを“OFF”にしてください。“AUTO”モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 53)

警告

■**車両への水の浸入**

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品やワイヤハーネスをぬらさないでください。(→ P. 81)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

注意

■**清浄するとき使用する溶剤について**

変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

■**革の傷みをさけるために**

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■**床に水がかかると**

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■**リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは**

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

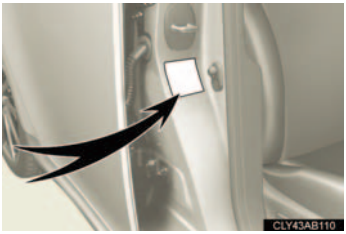
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧の数値



前輪：250 kPa (2.5 kg/cm^2)

後輪：250 kPa (2.5 kg/cm^2)

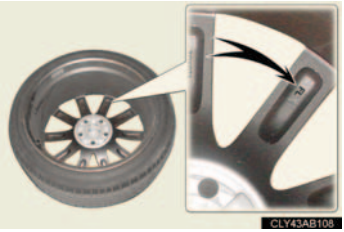
応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■タイヤ、ホイール交換について



ホイールは各輪専用に設定されています。

タイヤやホイールを交換するときは、ホイール裏側の表示と同じ位置へ取り付けてください。

“FR”：前輪右側

“FL”：前輪左側

“RR”：後輪右側

“RL”：後輪左側

■タイヤローテーションについて

ホイールが各輪専用に設定されているため、タイヤローテーションをすることはできません。

■超偏平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力も低下します。冬用タイヤかタイヤチェーン※を使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

※：19 インチタイヤにはタイヤチェーンは取り付けられません。

■超偏平タイヤの空気圧点検

超偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。とくに空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■タイヤの保管について

タイヤを車両からはずして保管する際は、ビニール袋に入れるなどして、水や直射日光を避けて保管してください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

■摩耗限度について

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、雨の日に制動距離が長くなったり、ハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤが破裂したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※：水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面のあいだに水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

注意

■超偏平タイヤについて

超偏平タイヤ付きホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用してください。空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凸凹のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石やほかの障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■タイヤ空気圧が低いとき

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

手順 1

ボンネット解除レバーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検した後は

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

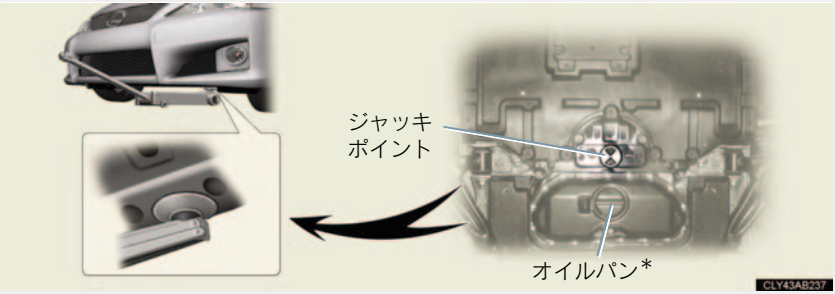
■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
  ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などで触れない
  - ・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

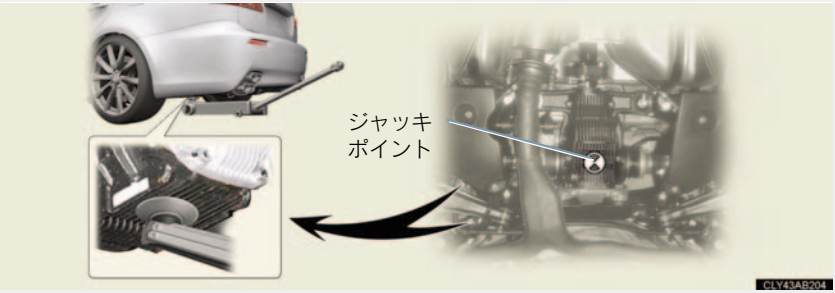
ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、ジャッキポイントにガレージジャッキを取り付けてください。
ジャッキポイントに取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



* :エンジンのオイルパンが、ジャッキポイントと間違えやすい形状をしているため、ガレージジャッキ取り付け時は注意してください。

■ リヤ側



警告

■車両を持ち上げるときには

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
自動車用ジャッキスタンドはしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

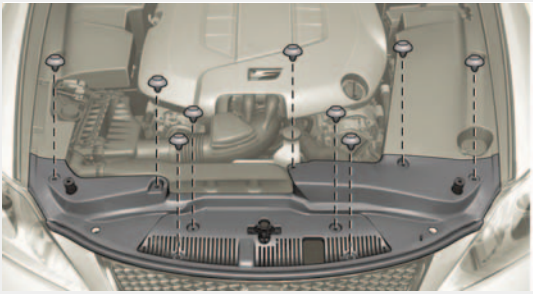
●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下に物を置かないでください。

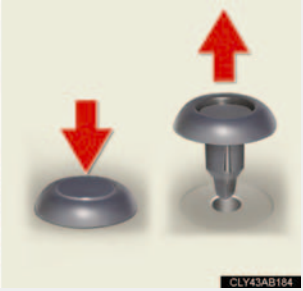
エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

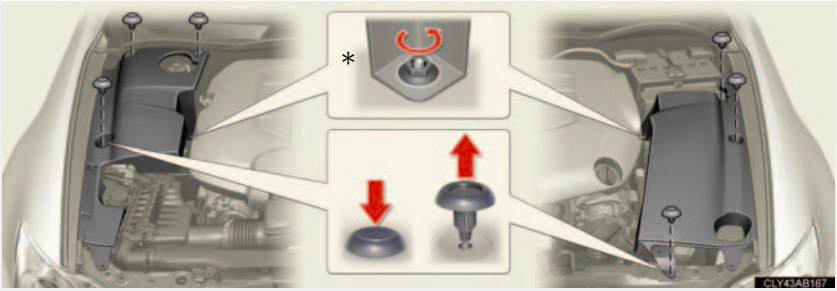
■ エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ フロント



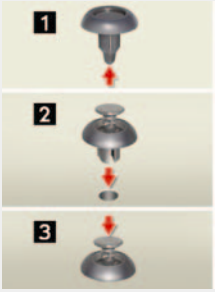


▶ サイド



＊：工具を使用して、エンジンルームカバーがはずれるまでナットをまわしてください。

■ クリップ、ナットの取り付け方



1 机のような固い面にクリップの先端を押しあて、クリップの中央部分を押し上げる

2 差し込む

＊：確実に下まで差し込んでください。

3 押す

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジンスタートストップ” スイッチをOFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■エンジンルームカバーを取り付けた後は

元の場所に確実に取り付けられていることを確認ください。

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球のW数を確かめてください。（→P. 291）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

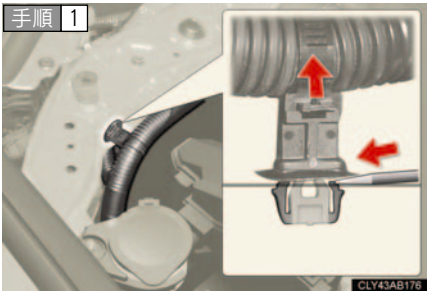
→P. 211

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

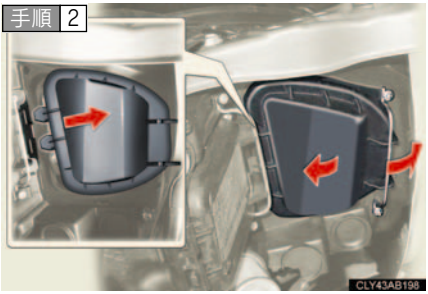
■ ヘッドライト（左側ハイビーム）



ワイヤハーネスクランプを取りはずす。

＊：オプションなどで異なる装備

手順 2

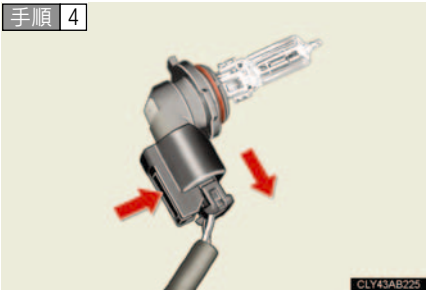


ロックを解除し、カバーを取りはずす。

手順 3

ソケットを取りはずす。

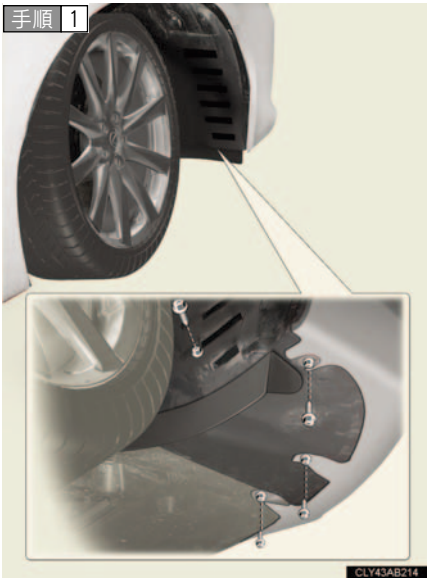
手順 4



電球を取りはずす。

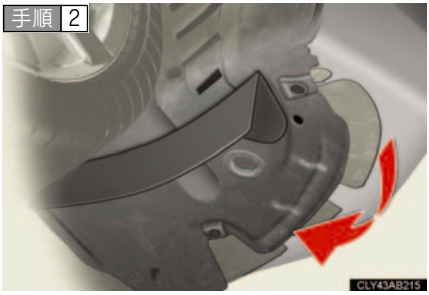
■ フロントフォグライト

手順 1



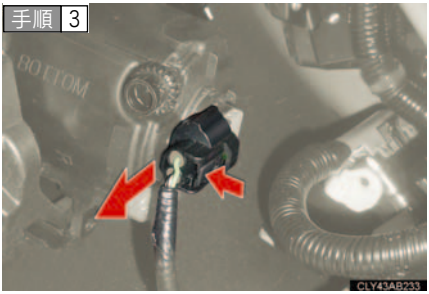
交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。フェンダーライナー固定ボルトをはずす。

手順 2



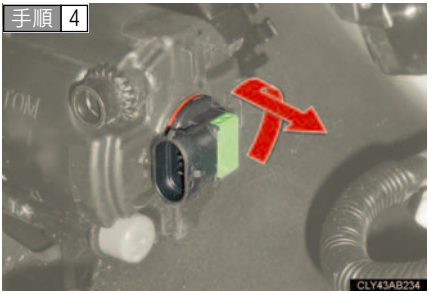
フェンダーライナーをめくる。

手順 3



コネクターを取りはずす。

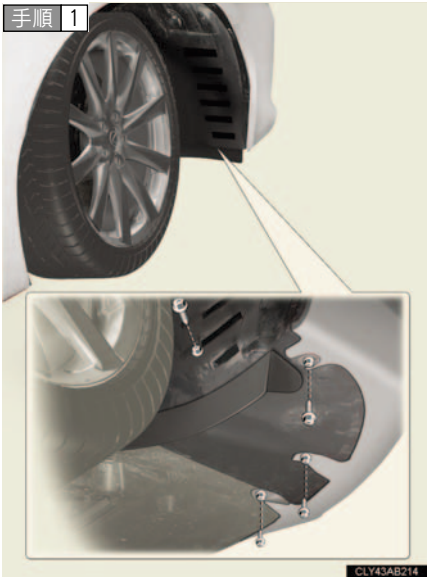
手順 4



電球を取りはずす。

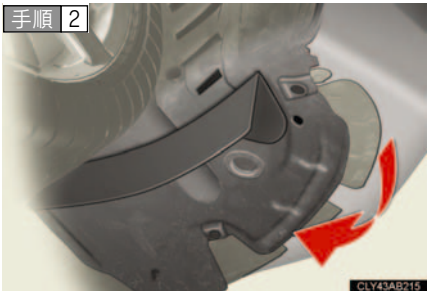
■ フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 1



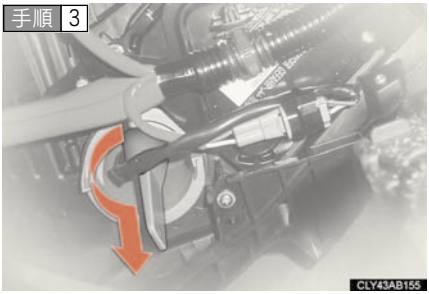
交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。フェンダーライナー固定ボルトをはずす。

手順 2



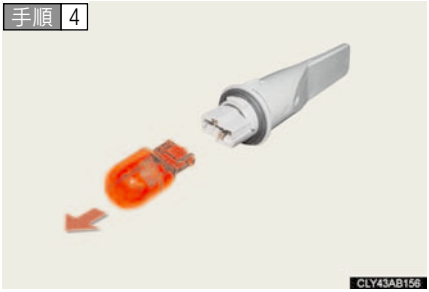
フェンダーライナーをめくる。

手順 3



ソケットを取りはずす。

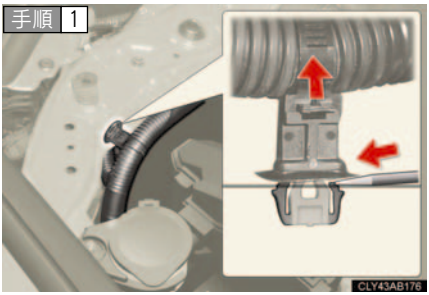
手順 4



電球を取りはずす。

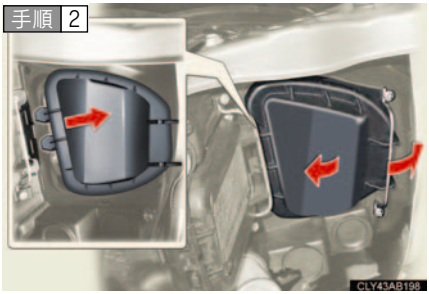
■ 車幅灯（左側）

手順 1



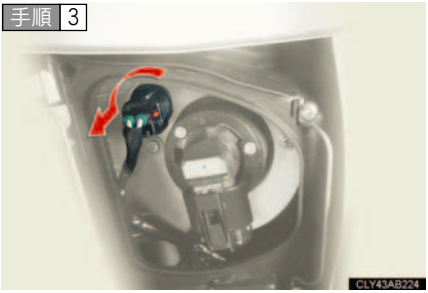
ワイヤハーネスクランプを取りはずす。

手順 2



ロックを解除し、カバーを取りはずす。

手順 3



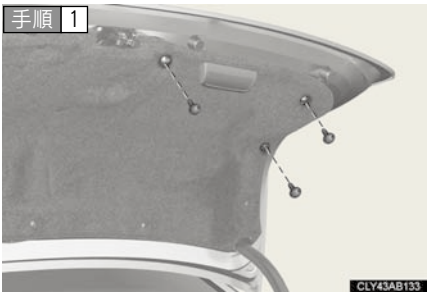
ソケットを取りはずす。

手順 4

電球を取りはずす。

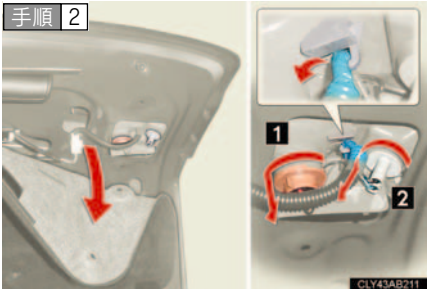
■ 後退灯、リヤフォグライト＊

手順 1



トランクを開け、カバーのクリップを取りはずす。

手順 2



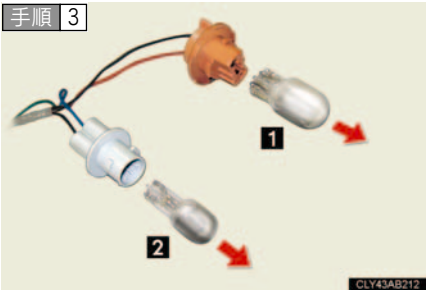
カバーの一部をめくり、ワイヤハーネスをはずしてからソケットを取りはずす。

1 リヤフォグライト＊

2 後退灯

＊：オプションなどで異なる装備

手順 3



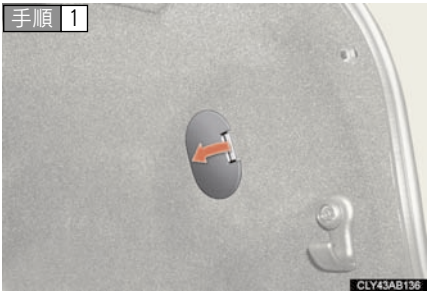
電球を取りはずす。

1 リヤフォグライト*

2 後退灯

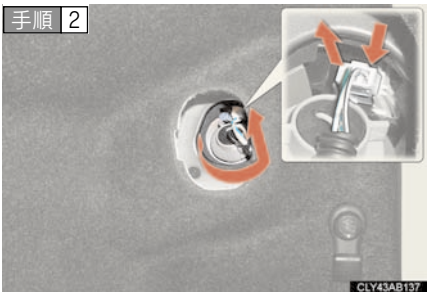
■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

手順 1



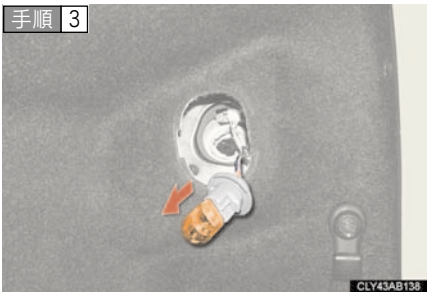
トランクを開け、カバーを取りはずす。

手順 2



コネクターをはずしてからソケットを取りはずす。

手順 3



電球を取りはずす。

*：オプションなどで異なる装備

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム／ハイビーム（ディスチャージバルブ）
- ヘッドライト（右側ハイビーム）
- 車幅灯（右側）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- 尾灯
- 番号灯

知識

■左側のヘッドライト（ハイビーム）、車幅灯を交換するときは

ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動させると、交換しやすくなります。

交換後は、必ずウォッシャー液補給口をボルトで固定してください。

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライトについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントフォグライト、フロント方向指示兼非常点滅灯の電球交換について

ご自身で電球交換をおこなった場合、車両を損傷するおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■LED 制動灯、ハイマウントストップライト、尾灯について

制動灯、ハイマウントストップライト、尾灯は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

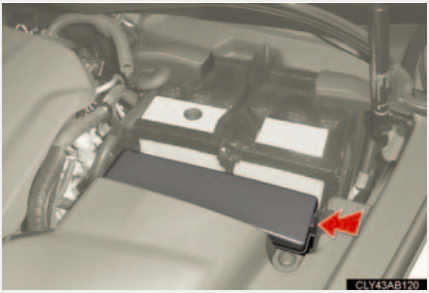
ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 エンジンルーム（ヒューズボックス B）：エンジンルームカバーを取りはずす。
→P. 211

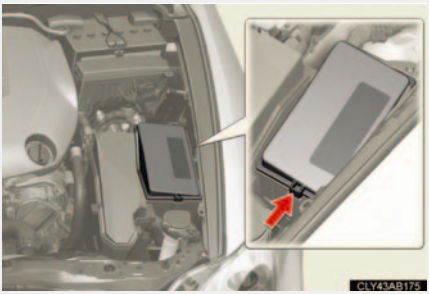
手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

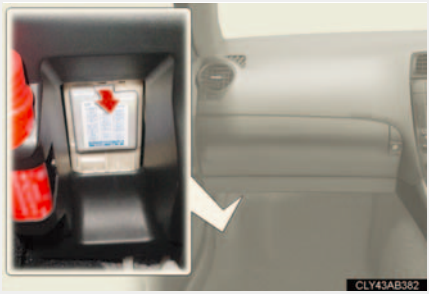


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元

カバーを取りはずす。

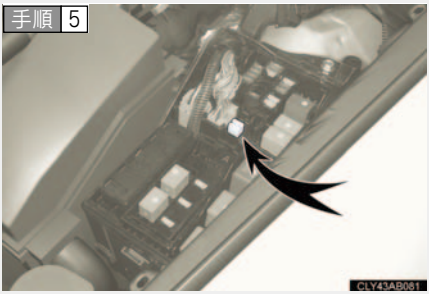
▶ 助手席足元



カバーを取りはずす。

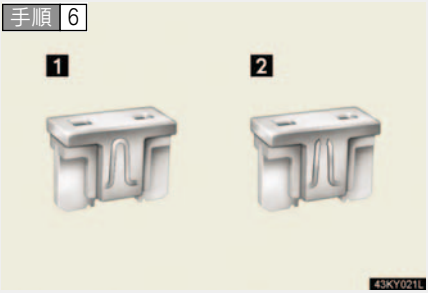
手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→ P. 226）で確認する。

手順 5



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 6



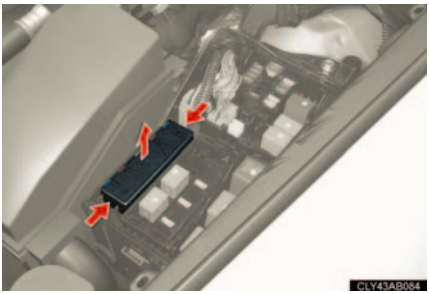
ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

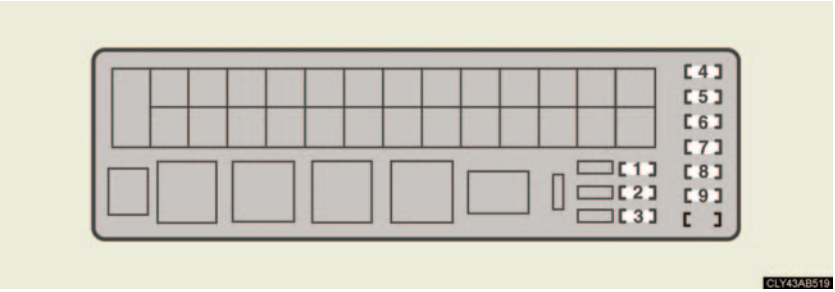
フロントコントローラを取り出す（ヒューズボックス B）



左右のツメを押しながら引き上げる。

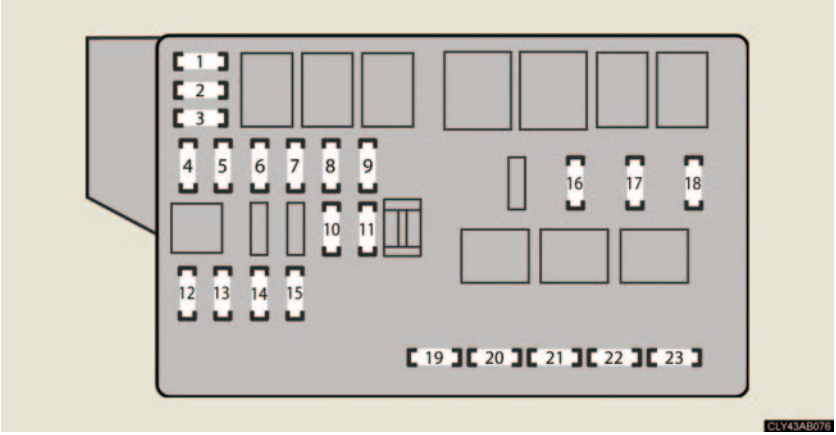
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	CDS	10 A	電動クーリングファン
2	DOME	10 A	室内灯、メーター、フロント足元照明
3	MPX-B	10 A	ヘッドライト、フロントフォグライト、車幅灯、ウォッシャー、ホーン、パワードアロックシステム、パワーウインドウ、パワーシート、パワーステアリング、メーター、スマートエントリー＆スタートシステム、電動ミラー、エアコン
4	RAD NO. 1	30 A	オーディオ
5	D/C CUT	20 A	DOME、MPX-B
6	RAD NO. 2	30 A	オーディオ
7	IG2 MAIN	20 A	IG2、IGN、GAUGE
8	TURN-HAZ	15 A	非常点滅灯、方向指示灯
9	ALT-S	7.5 A	オルタネーター

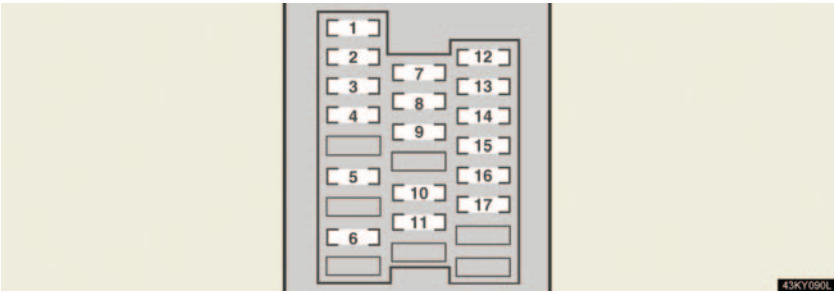
■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	SPARE	30 A	―――
2	SPARE	25 A	―――
3	SPARE	10 A	―――
4	FR CTRL-B	25 A	HORN、H-LP HI
5	A/F	15 A	排気システム
6	ETCS	10 A	EFI システム
7	TEL	10 A	ヘルプネット
8	INJ2	25 A	EFI システム
9	STR LOCK	25 A	ステアリングロック
10	DEICER	25 A	フロントワイパーデアイサー
11	FR CTRL-AM	30 A	FR FOG、WASHER、FR TAIL
12	IG2	10 A	始動システム
13	EFI NO. 2	10 A	EFI システム、排気システム
14	H-LP R LWR	15 A	右側ヘッドライト（ロービーム）
15	H-LP L LWR	15 A	左側ヘッドライト（ロービーム）
16	F/PMP	25 A	フューエルシステム
17	EFI	25 A	EFI システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
18	INJ	25 A	EFI システム
19	H-LP UPR	20 A	ヘッドライト（ハイビーム）
20	HORN	10 A	ホーン
21	WASHER	20 A	ウォッシャー
22	FR TAIL	10 A	車幅灯、番号灯
23	FR FOG	15 A	フロントフォグライト

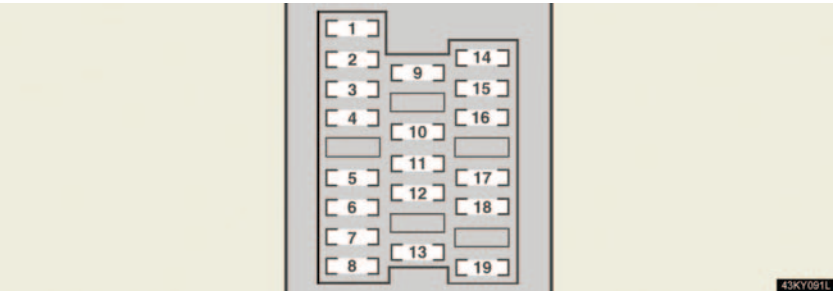
■ 運転席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR P/SEAT RH	30 A	パワーシート
2	DOOR DL	15 A	―――
3	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
4	STOP SW	7.5 A	制動灯、VDIM、シフトロック
5	TI ＆ TE	20 A	電動チルト＆テレスコピックステアリング
6	RAD NO. 3	10 A	オーディオ
7	GAUGE	7.5 A	メーター
8	IGN	10 A	SRS エアバッグシステム、ステアリングロック、制動灯、EFI システム、ヘルプネット
9	ACC	7.5 A	時計、エアコン、電動ミラー、スマートエントリー＆スタートシステム、ヘルプネット、ETC、グローブボックスライト、コンソールボックスライト、ナビゲーションシステム
10	CIG	15 A	シガレットライター
11	PWR OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
12	RR DOOR RH	20 A	パワーウインドウ
13	FR DOOR RH	20 A	パワーウインドウ、電動ミラー
14	AM2	7.5 A	スマートエントリー＆スタートシステム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	RH-IG	7.5 A	シートベルトプリテンショナー、オートマチックトランスミッション、シートヒーター、ウインドシールドワイパーデアイサー
16	FR S/HTR RH	15 A	シートヒーター
17	ECU-IG RH	10 A	パワーシート、スマートエントリー＆スタートシステム、電動ミラー、VDIM、エアコン、プリクラッシュシートベルト、パワーウインドウ、電動チルト＆テレスコピックステアリング、ヘッドライト、フロントフォグライト、車幅灯、番号灯、ウォッシャー、ナビゲーションシステム

■ 助手席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR P/SEAT LH	30 A	パワーシート
2	A/C	7.5 A	エアコン
3	MIR HTR	15 A	ミラーヒーター
4	TV NO. 1	10 A	ディスプレイ
5	FUEL OPEN	10 A	給油口オープナー
6	TV NO. 2	7.5 A	ETC
7	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
8	S/ROOF	25 A	ムーンルーフ
9	TAIL	10 A	尾灯、番号灯

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
10	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、エアコン、ディスプレイ、シガレットライター照明、シフト照明、インストルメントパネル照明、ヘルプネット
11	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
12	ECU-IG LH	10 A	エアコン、クルーズコントロール、パワーステアリング、ムーンルーフ、シフトロック
13	FR S/HTR LH	15 A	シートヒーター
14	RR DOOR LH	20 A	パワーウインドウ
15	FR DOOR LH	20 A	パワーウインドウ、電動ミラー
16	SECURITY	7.5 A	スマートエントリー＆スタートシステム
17	H-LP LVL	7.5 A	AFS
18	LH-IG	10 A	オルタネーター、リヤウインドウデフォッガー、電動クーリングファン、非常点滅灯、方向指示灯、後退灯、制動灯、ミラーヒーター、シートベルトプリテンショナー、排気システム
19	FR WIP	30 A	フロントワイパー

知識

■**ヒューズを交換した後**

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 213)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■**バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると**

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

電子キーの電池交換

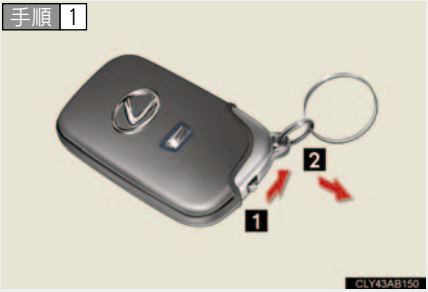
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1

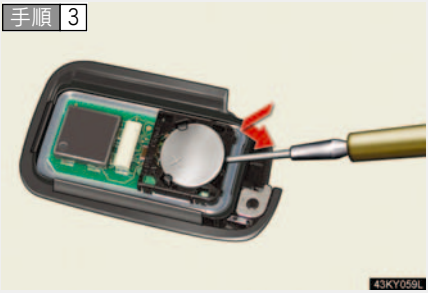


メカニカルキーを抜く。

手順 2

カバーをはずす。

手順 3



消耗した電池を取り出す。

新しい電池は“+”極を上にして取り付けます。

知識

■**電子キーの電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■**リチウム電池 CR1632 の入手**

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■**カードキーの電池交換が必要なときは**

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

警告

■**取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

●濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補給する。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液のみを使う

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

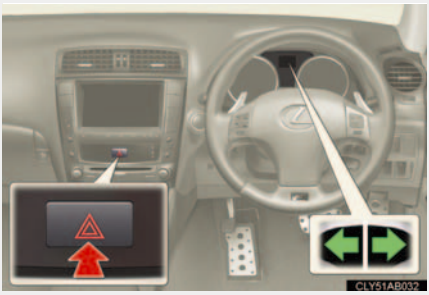
非常点滅灯 238
発炎筒 239
けん引について..... 241
イベントデータ
レコーダー 245

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは..... 247
警告メッセージが
表示されたときは..... 251
パンクしたときは..... 263
エンジンがかからない
ときは 271
シフトレバーが
シフトできないときは..... 273
キーを無くしたときは..... 274
電子キーが正常に
働かないときは..... 275
バッテリーがあがった
ときは 278
オーバーヒートした
ときは 281
スタックしたときは..... 283

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

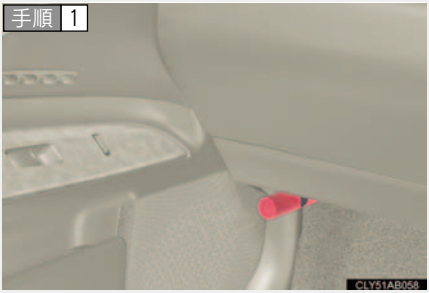
■**バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

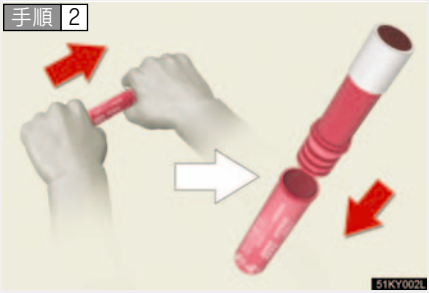
事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

手順 1



助手席足元の発炎筒を取り出す。

手順 2



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

手順 3

先端のふたをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、レクサス販売店でお求めください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

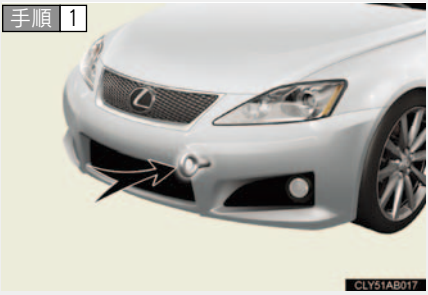
■ けん引される前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

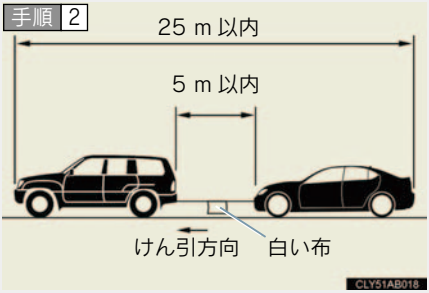
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

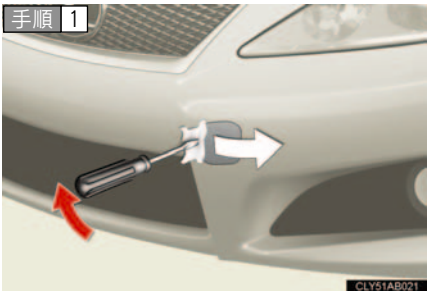
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

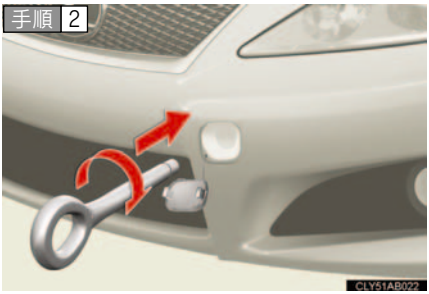
けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付け方

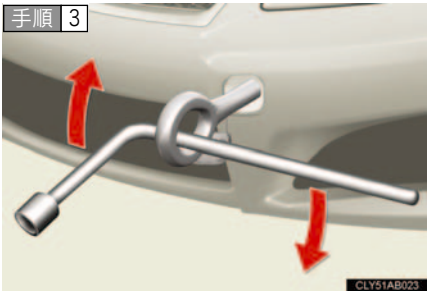


マイナスドライバーを使ってふたをはずします。

車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーのあいだに布をあててください。



けん引フックを穴に差しこみ軽く締めます。



ホイールナットレンチを使い確実に取り付けます。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 263

警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

しっかりと取り付けてください。
さもないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■けん引中の運転について

●けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理をおこなうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ倍力装置系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**

→P. 251

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	PCS 警告灯＊ ・プリクラッシュセーフティシステムの異常

知識

■パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

＊：オプションなどで異なる装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 **(警告ブザー)** ※1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める。
	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 11 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト非着用警告灯 **(警告ブザー)** ※2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト非着用警告灯 **(警告ブザー)** ※2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→ P. 251

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
→P. 251

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

警告ブザーとともに警告メッセージが表示されます。以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧 不足 （点滅）	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。
エンジンオイル 高温 （点滅）	**エンジンオイル温度の異常** エンジンオイルの温度が異常に高いと表示されます。 エンジン油温計の表示も同時に点滅します。 （→ P. 120）

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーとともに警告メッセージが表示されます。以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
ステアリングロック システム確認 （点滅）	**ステアリングロックシステムの異常**
PCS システムチェック PCS	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）＊の異常**
ソナー チェック	**クリアランスソナー＊の異常** 異常のあるソナーが点滅し表示されます。

＊：オプションなどで異なる装備

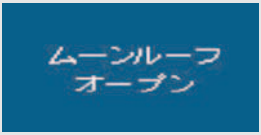
警告メッセージ	警告内容
クルーズ システムチェック （点滅後点灯） CRUISE（点滅）	**レーダークルーズコントロールシステム＊の異常**

＊：オプションなどで異なる装備

ただちに処置してください。

警告ブザーとともに警告メッセージが表示されます。以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
     	各ドアが確実に閉まっていない 閉まっていないドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときには が点滅しブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときには が点滅しブザーが鳴ります。	ボンネットを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	トランクが確実に閉まっていない トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときには が点滅しブザーが鳴ります。	トランクを閉める
 （点滅）	**ムーンルーフ*が確実に閉まっていない状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**	ムーンルーフを閉める
	パーキングブレーキが解除されていない パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h を超えたときには が点滅しブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
  （点滅）	**オートマチックトランスミッション油の過熱**	→P. 115

*：オプションなどで異なる装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ウォッシャー液 不足	**ウォッシャー液が残りわずか**	ウォッシャー液を補給する
エンジンオイル 不足	**エンジンオイルの不足**	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する 傾斜路などに停車したとき表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるか確認ください。
PCS 現在使用 できません PCS（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）＊が現在機能していないことを示す**	グリルまたはセンサーの汚れを取りのぞく プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると表示されます。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
ソナー 汚れ	**クリアランスソナー＊のセンサー部分の汚れ、氷などの付着**	汚れおよび氷などを取りのぞく

＊：オプションなどで異なる装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
レーダー汚れ 清掃必要 （点滅後点灯） CRUISE（点滅） ⚠	**レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着**	汚れおよび氷などを取りのぞく
悪天候 クルーズ できません （点滅後点灯） CRUISE（点滅） ⚠	**レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可**	・スノーモードを解除する ・ワイパーを止めるかオートまたは低速作動にかえる
100 km/h （点滅）	**（レーダークルーズコントロール*の車間制御中）衝突の危険性がある**	ブレーキを踏む
ブレーキ!	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ*が作動していることを示す**	ブレーキで減速する

*：オプションなどで異なる装備

知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

●先行車が非常にゆっくりした車のとき

●速度を設定した直後

●アクセルが踏まれたとき

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが見つかりません （10 秒間点灯）	**電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした**	電子キーを携帯してエンジンをかける※
1 回	3 回	キーが見つかりません （点滅）	**“エンジンスタートストップ” スイッチが OFF 以外のとき運転席以外のドアを開けて電子キーを車外に持ち出した**	電子キーを携帯して車内へ戻る
		キーが見つかりません	**シフトレバーが P の状態で、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した**	“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする または 電子キーを携帯して車内へ戻る

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	**シフトレバーがP以外の状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアを開け電子キーを車外に持ち出した**	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯して車内へ戻る
1回	なし	キーバッテリー残りわずか （10秒間点灯） （点滅）	**電子キーの電池残量が少ない**	新しい電池と交換する。 （→P. 233）
なし	なし	エンジン始動時ブレーキを踏んで下さい	**“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFの状態でいずれかのドアを開閉し、“エンジンスタートストップ”スイッチを2回以上アクセサリーモードにした**	エンジンを始動したいときは、ブレーキを踏んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押す
なし	なし	ステアリングロック未解除 （点滅）	**“エンジンスタートストップ”スイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった**	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジンスタートストップ”スイッチを押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れて下さい	**電子キーが正常に作動していない**	→P. 276
1 回	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい		

※ 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。（→P. 27）

パンクしたときは

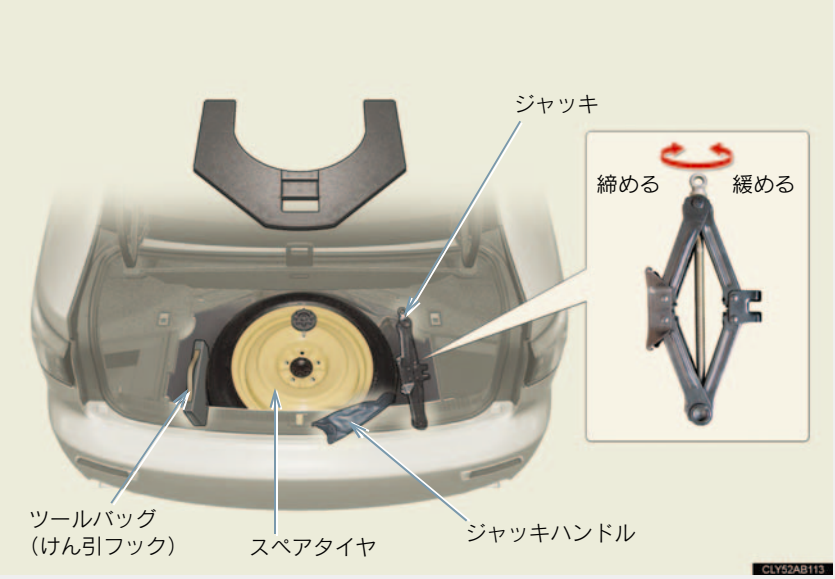
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。スペアタイヤは、前輪にのみ使用できます。

（タイヤについての詳しい説明は P. 203 をご覧ください。）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置



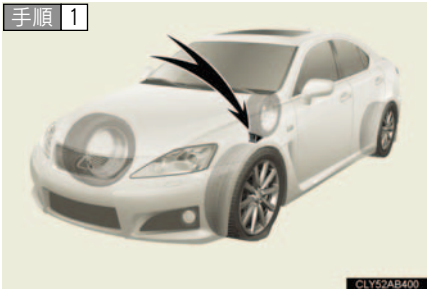
スペアタイヤの取り出し

スペアタイヤのとめ具を取りはずす。

とめ具を左にまわして取りはずし、スペアタイヤを取り出します。

パンクしたタイヤの交換

手順 1

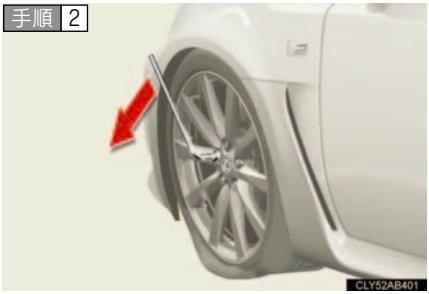


輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

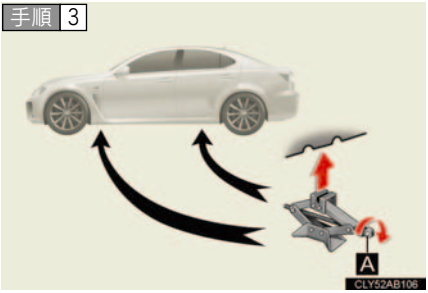
※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

手順 2



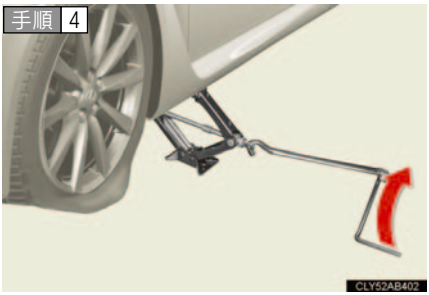
ナットを少し（約 1 回転）緩める。

手順 3



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

手順 4



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

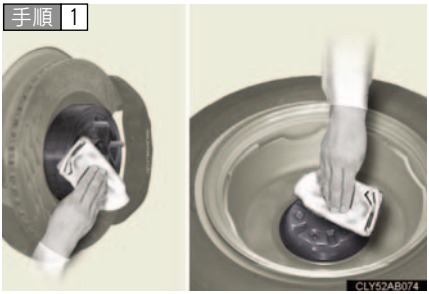
手順 5

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

スペアタイヤの取り付け

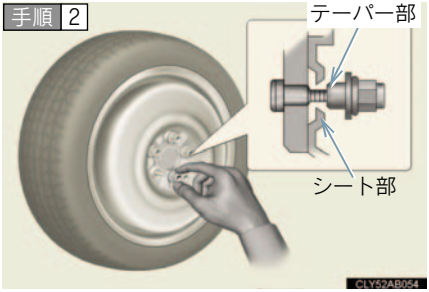
手順 1



ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

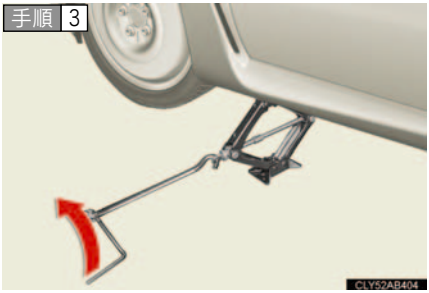
手順 2



スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

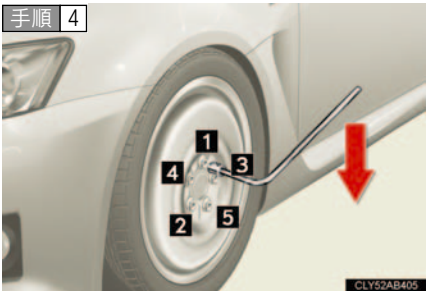
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす。

手順 3



車体を下げる。

手順 4



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

知識

■**応急用タイヤについて**

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 290)

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないためほかの車に使ったり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールがはずれて、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける。
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれて、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、ほかの車には使用しないでください

●応急用タイヤは後輪には使用しないでください。後輪がパンクしたときは、応急用タイヤを前輪に装着し、はずした前輪を後輪に装着してください。

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換ください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回はお避けください

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ABS ＆ブレーキアシスト

●VSC

●TRC

●ナビゲーションシステム

●バックガイドモニター

●レーダークルーズコントロール*

●クルーズコントロール*

●VDIM

●PCS *

●AFS

●LSD

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

*：オプションなどで異なる装備

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 106）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 106）にしたがって、エンジンをかけてください。

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 278）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 278）
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 76）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置の仕方がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで “エンジンスタートストップ” スイッチを約 15 秒以上押しつづける。

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

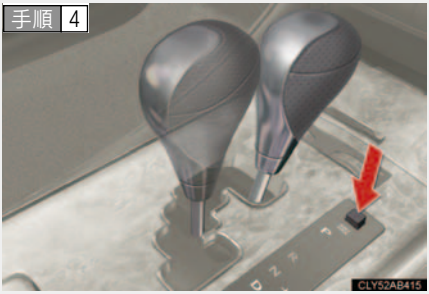
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4



シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

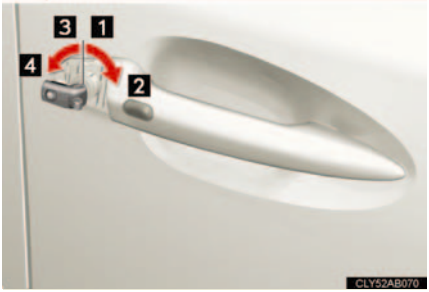
キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
（→ P. 20）

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 27）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けること、エンジンを始動することができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

▶ ドア



メカニカルキー（→P. 21）を使って、運転席側のカバーを取りはずした後操作します。

1 全ドア施錠

2 ドアガラス・ムーンルーフが閉まる（長まわし）

3 全ドア解錠

4 ドアガラス・ムーンルーフが開く（長まわし）

使用後は、カバーを元にもどしてください。

▶ トランク

キーを時計まわりにまわして開ける

モードの切り替え、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む。

手順 2

電子キーのレクサスエンブレム面で、“エンジンスタートストップ” スイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが “エンジンスタートストップ” スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して “エンジンスタートストップ” スイッチを押すごとにモードが切り替わります。（→P. 106）
エンジン始動：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“エンジンスタートストップ” スイッチを押します。

処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店に連絡してください。

知識

■エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止の仕方と同様、シフトレバーを P にして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

■電池交換について

上記のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 233）

■オートアラームについて

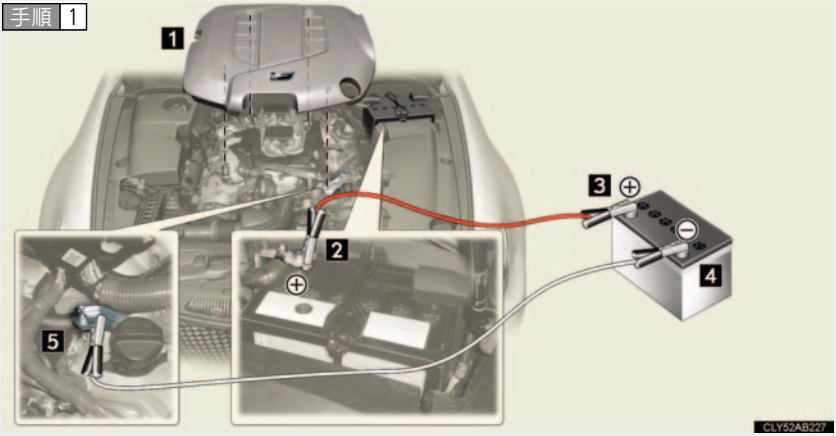
メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。（→P. 77）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1



バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを以下の手順にしたがってつなぐ。

1 エンジンカバーをはずす。

2 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。

3 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。

4 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。

5 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジンスタートストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■**バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■**バッテリーあがりを防ぐために**

●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間停まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■**バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は**

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーション等）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする

●バッテリーに寄りかかったりしない

●誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に停め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 エンジンルームカバー（フロント）をはずす。（→P. 211）

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、レクサス販売店に連絡する。

手順 5

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

手順 6

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。（別冊メンテナンスノート参照）

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはクーラントリザーバーキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。（→P. 150）

警告

■脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、ほかの車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両仕様 6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など） 286

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 293

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

燃料

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	64

エンジンオイル

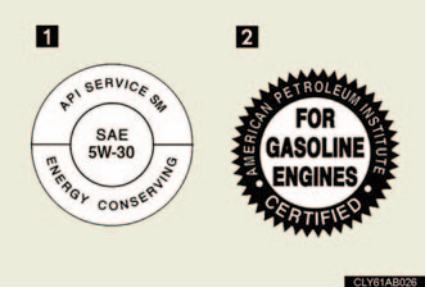
銘柄※1	エンジン	容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SM 5W-30 ※2 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル　SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC, SAE 10W-30	2UR-GSE	8.2	9.3

※1 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

※2 省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

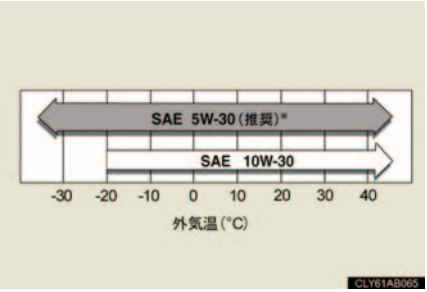


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。



※省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 5W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-30 の 30 は、オイル粘度の硬さを示しています。
  粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄※1	容量 [L] （参考値）
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　　-12 ℃ 濃度 50%　　-35 ℃	11.9

※1 使用するクーラントの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正クーラントのご使用をおすすめします。弊社純正クーラント以外を使用される場合は、弊社純正クーラントに相当する品質のものをご使用ください。

オートマチックトランスミッション

銘柄※2	駆動方式	容量 [L] （参考値）
弊社純正オートフルード　WS	FR（後輪駆動）	11.0

※2 使用するオートフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オートフルードのご使用をおすすめします。弊社純正オートフルード以外を使用される場合は、弊社純正オートフルードに相当する品質のものをご使用ください。

ディファレンシャル

銘柄※1（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

※1 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄※2
弊社純正ブレーキフルード 2500H

※2 使用するブレーキフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正ブレーキフルードのご使用をおすすめします。弊社純正ブレーキフルード以外を使用される場合は、弊社純正ブレーキフルードに相当する品質のものをご使用ください。

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※3	110

※3 エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300 N (30 kgf) のときのノッチ※4 数	7 ～ 9

※4 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	4.5

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
標準タイヤ	前輪：225/40R19 89Y 後輪：255/35R19 92Y	250 (2.5)	250 (2.5)
スペアタイヤ	T135/70R18 103M	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム／ハイビーム （ディスチャージヘッドライト）	60 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグライト＊	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	LED ※
	ドアミラー照明	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

＊：オプションなどで異なる装備

電球		W（ワット）数
車内	フロントインテリアライト	5
	フロントおもてなし用インテリアライト	3.8
	フロントパーソナルライト	LED ※
	リヤインテリアライト	3
	リヤおもてなし用インテリアライト	3
	リヤパーソナルライト	LED ※
	フロントドアカーテシー照明	5
	フロント足元照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※
	コンソールボックスライト	LED ※
	シフト照明	LED ※
	トランクライト	5
	バニティライト	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
IS F	USE20	2UR-GSE (5.0L ガソリン)	FR（後輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、ほかの機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー＆スタートシステム（→P. 24）	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
ワイヤレスドアロック（→P. 34）	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	トランク解錠機能	あり	なし
	トランク解錠時の操作	1 回長押し	2 回押し
			1 回短押し
ドアロック（→P. 36）	キーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠
	車速感応式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ハンドル（→P. 58）	オートアウェイ＆オートリターン機構	あり	なし
パワーウインドウ（→P. 64）	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
			閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	なし	開閉作動
			開作動のみ
			閉作動のみ
	スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機能	あり	なし
ムーンルーフ（→P. 67）	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
			閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	なし	開閉作動
			開作動のみ
			閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	なし	スライドのみ
			チルトのみ
	スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機能	あり	なし
オートアラーム（→P. 77）	メカニカルキーを使って解錠したときの作動	なし	あり
ライト自動点灯・消灯システム（→P. 129）	ライトセンサーの感度調整	レベル３	レベル１～５
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイパー＆ウォッシャー（→P. 134）	停車時の間欠作動切り替え	あり	なし
	液だれ防止作動	あり	なし
	液だれ防止作動が働くまでの時間	車速可変	3 秒
イルミネーション（→P. 168）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動	あり	なし
	足元照明の点灯	あり	なし
	シフト照明の点灯	あり	なし
	ドアミラー照明の点灯	あり	なし

さくいん

略語一覧 298

五十音順さくいん 299

症状別さくいん 307

ナビゲーションシステムおよびエレクトロマルチビジョンにかかわる装備（エアコン・オーディオなど）は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI-SHIFT	アーティフィシャルインテリジェントシフト
DISP	ディスプレイ
EDR	イベントデータレコーダー
ETC	エレクトロニックトールコレクション
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
LSD	リミテッドスリップディファレンシャル
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

あ

アームレスト 188
アクセサリーソケット 185
足元照明 168
アダプティブフロントライティング
　システム 130
アンチロックブレーキシステム..... 149

い

イグニッションスイッチ 106
イベントデータレコーダー 245
イルミネーテッドエントリー
　システム 168
インストルメントパネル照度
　調整ダイヤル 121
インテリアライト
　スイッチ 169
インナーミラー 60

う

ウインカー
　W 数 291
　スイッチ 117
　電球の交換 213
ウインドウ
　ウォッシャー 134
　パワーウインドウ 64
ウインドウロックスイッチ 64
ウォーニングライト 247
ウォッシャー
　液の補給 235
　スイッチ 134
　タンク容量 290
　冬の前の準備・点検 163
運転
　寒冷時の運転 163
　正しい姿勢 80
　手順 98
運転席シートベルト
　非着用警告灯 249

え

エアコン※
エアバッグ
　SRS エアバッグ 81
　一般的な警告 85
　お子さまのための注意 86
　カーテンシールドエアバッグに
　　関する警告 87
　カーテンシールドエアバッグの
　　作動条件 83
　改造・分解 88
　警告灯 248
　サイドエアバッグに
　　関する警告 87
　サイドエアバッグの作動条件 83
　作動条件 82
　正しい姿勢 80
　配置 81
エレクトリックパワー
　ステアリング 149
エンジン
　イグニッションスイッチ 106
　エンジン回転計 120
　エンジンがかからない 271
　エンジン警告灯 248
　エンジンスイッチ 106
　エンジンルームカバー 211
　オーバーヒート 281
　かけ方 106
　ボンネット 207
エンジンイモビライザーシステム 76
エンジンオイル
　冬の前の準備・点検 163
　容量 286

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

お

応急用タイヤ
空気圧 290
スペアタイヤ 263
オートアラーム 77
オートマチックトランスミッション
Mモード 112
オートマチックトランス
ミッション 110
シフトレバーが
シフトできない 273
オーディオ※
オートレベリングシステム 130
オーバーヒート（エンジン）..... 281
オープナー
給油口 72
トランク 40
ボンネット 207
お子さまの安全のために
ウインドウロックスイッチ 64
エアバッグに関する警告 85
お子さまのシートベルト着用 55
シートヒーターに
関する警告 187
シートベルトコンフォート
ガイド 54
シートベルトに関する警告 56
チャイルドシート 89
チャイルドシートの固定 89
チャイルドプロテクター 37
電子キーの電池に関する
警告 234
トランクに関する警告 42
バッテリーに関する警告 280
パワーウインドウに
関する警告 66
ムーンルーフに関する警告 70
オドメーター 120

か

カーテンシールドエアバッグ 81
外気温表示 127
買い物フック 193
カスタマイズ機能 293
ガソリンスタンドでの情報 310
カップホルダー 174

き

キー
エンジンスイッチ 106
キー 20
キーナンバー 20
キーレスエントリー 34
キーを無くした 274
電子キー 20
電子キーが正常に働かない 275
メカニカルキー 20
ワイヤレスドアロック 34
救急箱等固定用バンド 193
給油口 72
緊急時の対処
エンジンがかからない 271
オーバーヒートした 281
キーを無くした 274
警告灯がついた 247
警告メッセージが表示された ... 251
けん引 241
スタックした 283
シフトレバーが
シフトできない 273
電子キーが正常に働かない 275
発炎筒 239
バッテリーがあがった 278
パンクした 263

く
空気圧（タイヤ）..... 290
区間距離計..... 120
曇り取りスイッチ※
クルーズコントロール
クルーズコントロール..... 137
レーダークルーズ
コントロール 140
グローブボックス..... 172
グローブボックスライト 172

け
計器
メーター 120
メーター照度調整ダイヤル..... 121
警告灯
SRS エアバッグ..... 248
アンチロックブレーキ
システム 248
エンジン 248
シートベルト非着用..... 249
充電 247
燃料残量 249
パワーステアリング..... 248
半ドア 249
プリクラッシュセーフティ
システム 248
プリテンショナー..... 248
ブレーキ 247
ブレーキアシスト..... 248
マスターウォーニング..... 249
警告表示
ウォッシャー液量..... 255
エンジンオイル圧力..... 252
エンジンオイル量..... 255
エンジンオイル温度..... 252
オートマチック
トランスミッション油温..... 255
クリアランスソナー..... 253, 255
ステアリングロック..... 253
スマートエントリー＆
スタートシステム 260
ドア 255
トランク 255
パーキングブレーキ..... 255
ヒルスタートアシスト
コントロール 149
プリクラッシュセーフティ
システム 253, 255
ボンネット 255
ムーンルーフ 255
レーダークルーズ
コントロール 253, 255
警告ブザー
シートベルト非着用..... 249
半ドア 249
ブレーキ 247
化粧用ミラー..... 178
けん引..... 241

こ
交換
タイヤ 263
電球 213
電子キーの電池..... 233
ヒューズ 223
工具 263

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

後退灯
W 数 291
電球の交換 213
コートフック 191
小物入れ 176
コンソールボックス 173
コンライト
（自動点灯・消灯装置）..... 129

さ
サイドエアバッグ 81
サンシェード 68
サンバイザー 177

し
シート
シートヒーター 186
シートポジションメモリー 49
正しい姿勢 80
チャイルドシートの固定 89
調整 44
調整に関する警告 44
手入れ 201
運転席ポジションメモリー 45
ヘッドレスト 51
シートヒーター 186
シートベルト
お子さまの着用 55
緊急時シートベルト固定機構 55
シートベルト警告灯 249
シートベルト
プリテンショナー 54
清掃・手入れ 201
正しい着用 53
チャイルドシートの固定 89
調整 53
妊娠中のかたの着用 55
シートポジションメモリー 49
シガレットライター 184
室内灯
スイッチ 169
シフト照明 168
シフトレバー
オートマチックトランス
ミッション 110
シフトレバーが
シフトできない 273
シフトロックシステム 273
ジャッキ
ガレージジャッキ 209
車載ジャッキ 263
ジャッキハンドル 263
車幅灯
W 数 291
電球の交換 213
ライトスイッチ 129
車両型式 292
車両仕様 286
収納装備 171
助手席シートベルト
非着用警告灯 249

す
水温計 120
スイッチ
F- スポーツモードトータル
コントロール
スイッチ 111, 151
イグニッションスイッチ 106
ウインドウロックスイッチ 64
エンジンスイッチ 106
サテライトスイッチ 180
シフトロック解除ボタン 273
車間切り替えスイッチ 142
VSC OFF スイッチ 150

DISP スイッチ..... 126
ドアロックスイッチ..... 36
ハザードスイッチ..... 238
パワーウインドウスイッチ..... 64
非常点滅灯 238
フォグライトスイッチ..... 132
ライトスイッチ 129
ワイパー＆ウォッシャー
スイッチ 134
スタック
スタックした 283
ステアリングホイール
調整 58
ハンドルポジションメモリー 45
スピードメーター 120
スペアタイヤ
空気圧 290
収納場所 263
スペック..... 286
スマートエントリー＆スタートシステム
エンジンの始動 106
ドアの施錠・解錠..... 24
トランクを開ける..... 24

せ
清掃
外装 198
シートベルト 201
内装 201
積算距離計..... 120
洗車 198
前照灯
W 数..... 291
スイッチ 129
ディスチャージヘッドライトに
関する警告 222
電球の交換 213

そ
速度計..... 120

た
タイヤ
空気圧 290
交換 263
スペアタイヤ 263
チェーン 164
点検 203
パンクした 263
冬用タイヤ 163
ローテーション..... 204
タコメーター 120

ち
チェーン（タイヤチェーン）..... 164
チェンジレバー
オートマチックトランス
ミッション 110
チェンジレバーが
シフトできない 273
チャイルドシート
ISOFIX バーでの固定..... 91
シートベルトでの固定..... 90
チャイルドプロテクター 37
駐車ブレーキ..... 118

つ
ツール..... 263

て
ディスプレイ
警告メッセージ..... 251
トリップインフォメーション ... 126
レーダークルーズ
コントロール 140
手入れ
外装 198
シートベルト 201
内装 201

テールランプ
スイッチ 129
電球
W 数 291
交換 213
電子キー
正常に働かない 275
電池交換 233
電話スイッチ※

と
ドア
ドアガラス 64
ドアミラー 61
ドアロック 24, 34, 36
ドアカーテシーライト 168
ドアガラス 64
ドアポケット 175
ドアミラー
調整 61
ミラーポジション
メモリー 45
ドアミラー照明
W 数 291
ドアミラー照明 168
盗難警報アラーム 77
盗難防止システム
エンジンイモビライザー
システム 76
オートアラーム 77
トークスイッチ※
時計 179
ドライビングポジションメモリー.... 45
トラクションコントロール 149
トランク
オープナー 40
トランクスルー 189
トランクライト 41
トランクライト
W 数 291
トリップメーター 120

な
ナビゲーションシステム※

に
荷物
積むときの注意 161
荷物固定用フック 193

ね
燃料
ガソリンスタンドでの情報 310
給油 72
種類 286
燃料計 120
容量 286

は
パーキングブレーキ 118
パーソナルライト
スイッチ 169
灰皿 183
ハザードライトスイッチ 238
発炎筒 239
バックアップライト
W 数 291
電球の交換 213
バッテリー
バッテリーがあがった 278
冬の前の準備点検 163
バニティミラー 178
バニティライト
W 数 291
バニティライト 178

バルブ
W 数 291
交換 213
パワーウインドウ 64
パンク
パンクした 263
ハンドル
調整 58
ハンドルポジションメモリー 45

ひ
ビークルスタビリティ
コントロール 149
ビークルダイナミクス
インテグレイテッド
マネージメント 149
ヒーター
シートヒーター 186
非常点滅灯スイッチ 238
尾灯
スイッチ 129
ヒューズ 223
表示灯 123
ヒルスタートアシスト
コントロール 149

ふ
フォグライト
W 数 291
スイッチ 132
電球の交換 213
フック
買い物フック 193
けん引フック 241
コートフック 191
荷物固定用フック 193
冬用タイヤ 163
プリクラッシュセーフティ
システム 155
ブレーキ
パーキングブレーキ 118
ブレーキアシスト 149
フロアマット 192
フロントシート
シートポジションメモリー 49
調整 44
ドライビングポジション
メモリー 45
フロントターンシグナルライト
W 数 291
電球の交換 213
フロントフォグライト
W 数 291
スイッチ 132

へ
ヘッドライト
W 数 291
スイッチ 129
ディスチャージヘッドライトに
関する警告 222
電球の交換 213
ヘッドレスト
調整 51

ほ
ホーン 119
ホイール 203
方向指示灯
W 数 291
スイッチ 117
電球の交換 213
ボトルホルダー 175
ボンネット 207

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

ま

マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 126

み

ミラー
インナーミラー 60
ドアミラー 61
バニティミラー 178

む

ムーンルーフ..... 67

め

メーター
メーター 120
メーター照度調整ダイヤル..... 121
メンテナンス
メンテナンスデータ..... 286

ら

ライト
W 数 291
室内灯 168
電球の交換 213
ドアカーテシーライト..... 168
パーソナルライト..... 169
ハザードライト 238
バニティライト 178
非常点滅灯 238
フォグライト 132
ヘッドライト 129
方向指示灯 117

り

リヤウインドウデフォッガースイッチ※
リヤターンシグナルライト
W 数 291
電球の交換 213
リヤフォグライト
W 数 291
スイッチ 132
電球の交換 213

れ

冷却水
冬の前の準備・点検..... 163
容量 288
冷却装置
エンジンオーバーヒート 281
レーダークルーズコントロール..... 140

わ

ワイパー
スイッチ 134
ワイパーデアイサー※
ワイヤレスドアロック
リモコン 34

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

症状別さくいん

タイヤがパンクした → P. 263 パンクしたときは

エンジンがかからない → P. 271 エンジンがかからないときは / P. 76 エンジンイモビライザーシステム / P. 278 バッテリーがあがったときは

シフトレバーが動かない → P. 273 シフトレバーがシフトできないときは

水温計の針が赤いゾーンに入った

エンジンルームから蒸気が立ちのぼった

→ P. 281 オーバーヒートしたときは

キーを無くした → P. 274 キーを無くしたときは

バッテリーがあがった → P. 278 バッテリーがあがったときは

ドアが施錠できない → P. 24 / P. 34 / P. 36 ドア

ホーンが鳴り出した → P. 77 オートアラーム

ぬかるみや砂地などで動けなくなった → P. 283 スタックしたときは

警告灯が点灯、点滅した

P. 247 警告灯がついたときは

■警告灯一覧

ブレーキ警告灯 P. 247

ABS& ブレーキアシスト警告灯 P. 248

燃料残量警告灯 P. 249

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 248

半ドア警告灯 P. 249

エンジン警告灯 P. 248

充電警告灯 P. 247

運転席シートベルト非着用警告灯 P. 249

助手席シートベルト非着用警告灯 P. 249

マスターウォーニング P. 249

パワーステアリング警告灯 P. 248

PCS 警告灯 P. 248

警告メッセージが表示された

P. 251 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

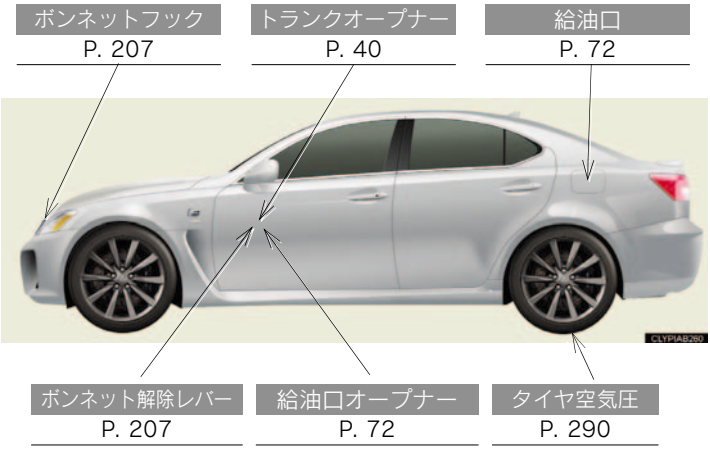
- 警告灯が点灯、点滅している（→P. 247）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 251）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 32
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 114
	シフトダウンしたとき	P. 114
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 144
	ブレーキを踏んだとき	P. 104
	D ポジションでのパドルシフト操作時または M ポジションで走行しているとき	P. 114

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量	64L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン　P. 73, 286
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ：250 (2.5) kPa (kg/cm^2) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量	オイルのみ交換時　8.2 L オイルとフィルター交換時　9.3 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SM 5W-30　(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL 10W-30 (API SL、EC、SAE 10W-30)

「個人情報保護方針」については、http://lexus.jp にて掲載しております。

IS F

ル-77

●印刷　2009年 7 月23日　NAC
●発行　2009年 7 月30日　初版

M53775
01999-53775